



# 第2期関市スポーツ推進計画


令和4年3月  
関市





## 目次

<b>第1章 計画の策定にあたって</b> .....	<b>1</b>
1 計画策定の背景 .....	1
2 計画の性格・位置づけ .....	2
3 計画の期間 .....	3
4 ニーズ等の把握 .....	3
<b>第2章 第1期計画の評価と課題</b> .....	<b>4</b>
1 週1回以上のスポーツ実施率の向上 .....	4
2 生涯スポーツ（「する」スポーツなど）の推進に向けて .....	10
3 競技スポーツ（「する」「みる」スポーツ）の推進に向けて .....	15
4 子どもの運動・スポーツ活動（「する」スポーツなど）の推進に向けて .....	22
5 ささえるスポーツの推進に向けて .....	27
6 スポーツ環境の諸整備に向けて .....	31
<b>第3章 基本的な方向性</b> .....	<b>35</b>
1 基本理念 .....	35
2 基本目標 .....	36
3 施策体系 .....	37
4 成果目標 .....	38
<b>第4章 基本施策の展開</b> .....	<b>39</b>
I 「する」スポーツの推進 .....	39
II 「みる」スポーツの推進 .....	44
III 「ささえる」スポーツの推進 .....	47
IV スポーツを「つくる」「はぐくむ」 .....	51
V スポーツ環境を「ととのえる」 .....	54
<b>第5章 計画の推進</b> .....	<b>57</b>
1 推進体制 .....	57
2 進捗管理 .....	57
<b>第6章 資料</b> .....	<b>58</b>
1 策定体制 .....	58
2 策定経過 .....	62





# 第1章 計画の策定にあたって

## 1 計画策定の背景

近年、少子高齢化や共働き世代の増加等による地域コミュニティの衰退、生活習慣病の増加や情報社会の進展など、様々な課題に直面しています。スポーツは、こうした社会において、心身の健康増進に寄与するだけでなく、地域や仲間とのつながりを生み出すなど、人々の健康づくり、生きがいづくり、そして地域のコミュニティづくりに大きな役割を果たすことが期待されています。

しかし、令和に入り発生した新型コロナウイルスの感染拡大により、人々の日常生活は大きな影響を受け、スポーツ活動も制限等を余儀なくされました。そうした中、1年延期して開催された東京オリンピック・パラリンピックにより、アスリートやそれを支えるボランティア等の取り組む姿が世界中に希望や勇気をもたらし、スポーツの価値が再認識されました。

平成23年8月に施行された「スポーツ基本法」は、すべての国民にスポーツを楽しむ権利「スポーツ権」を認めるとともに、地域のスポーツクラブや障がい者スポーツへの支援等の基本的な方向性を示しています。この法律に基づき、平成24年3月に「スポーツ基本計画」（文部科学省）、平成29年3月には「第2期スポーツ基本計画」（文部科学省）が策定され、令和4年4月から第3期計画がスタートされます。

岐阜県においては、平成27年3月に「清流の国ぎふスポーツ推進計画」が策定されましたが、東京オリンピック・パラリンピックの開催延期に伴い、計画期間が1年延長となったため、令和4年4月から第2期計画がスタートされます。

関市におけるスポーツをめぐるっては、この間、平成24年9月に岐阜県で47年ぶり2度目となる「ぎふ清流国体・ぎふ清流大会」が開催されました。市内の競技会場では、ぎふ清流国体で4競技、ぎふ清流大会で2競技が実施され、300人以上の「ぎふ清流国体関市ボランティア」が大会を支えました。平成28年9月に開催された「第70回全国レクリエーション大会 in 岐阜」では市内の競技会場で2競技が実施されました。また、令和元年9月から国内で開催された「ラグビーワールドカップ2019日本大会」に際しては南アフリカ共和国代表チームの合宿を受け入れ、令和3年7月から開催された東京オリンピックに際してはコートジボワール共和国との交流を図ってきました。これらを通じて、市民のスポーツに対する関心は高まったと考えられ、今後、その関心の高まり

を継続していく必要があります。また、こうした機運の高まりを生かし、「する」「みる」「ささえる」スポーツの好循環を生み出し、さらに、スポーツを通じてつながり合うことにより、新たなスポーツの価値観等を「つくり」出し、「はぐくむ」ことなどが期待されています。

関市におけるスポーツの推進にあたっては、平成 22 年 3 月に「関市スポーツ振興計画」（「関市スポーツ推進計画 前期計画」）を策定、これを平成 27 年 3 月に「関市スポーツ推進計画 後期計画」（以下、「第 1 期計画」といいます。）として改定し、「いつでも、どこでも身近で気軽にスポーツを楽しめるまち せきし」を基本理念に掲げ、「市民ひとり 1 スポーツ」を広めるための各種施策に積極的に取り組むことにより、“みんなでハッピーライフ”の実現を目指してきました。

この計画は、第 1 期計画の期間が満了したため、令和 4 年 4 月からスタートされる「第 3 期スポーツ基本計画」（文部科学省）や公共施設予約システム（「せきとる net」）など関市の主要施策の進捗状況にあわせ、今後のスポーツ施策の一層の推進を図るため見直しを行い、第 2 期計画として策定するものです。

## 2 計画の性格・位置づけ

この計画は、スポーツ基本法に基づき国（文部科学省）が定める「スポーツ基本計画」を参酌するとともに、岐阜県のスポーツ推進計画や関市の総合計画との整合、教育振興計画や健康増進計画、高齢者福祉計画、障がい者計画などの関連計画との連携を図りつつ、関市の実情に即したスポーツの推進に関する施策の基本的な指針を示すものです。

図表 1-1 計画の位置づけ



### 3 計画の期間

この計画の期間は、令和4年度から令和13年度までの10年間とします。  
 なお、国（文部科学省）が定める「スポーツ基本計画」が5年を目途に改定されていることを踏まえ、必要に応じて、期間の中間（5年後を目途）に計画を見直すこととします。

図表1-2 計画の期間

年度	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9	令和10	令和11	令和12	令和13
国	第3期スポーツ基本計画									
岐阜県	第2期清流の国ぎふスポーツ推進計画									
関市	第5次総合計画									
	第2期教育振興計画									
	第2期スポーツ推進計画									

↑必要に応じて見直し

### 4 ニーズ等の把握

この計画の策定にあたり、市民のスポーツの実施状況やニーズ等を把握するため、令和2年に「スポーツに関する市民意識調査」（以下、「令和2年アンケート調査」といいます。）を実施しました。

図表1-3 令和2年アンケート調査の概要

調査対象	一般（16歳以上）	小中学生（小学5・中学2年生）
調査方法	住民基本台帳より無作為抽出し、郵送により調査票を配布・回収	各小中学校を通じて調査票を配布・回収
調査期間	令和2年12月4日～ 令和3年1月10日	令和2年11月26日～12月25日
調査数	2,000	1,646
有効回答数	729	1,525
有効回答率	36.5%	92.6%

## 第2章 第1期計画の評価と課題

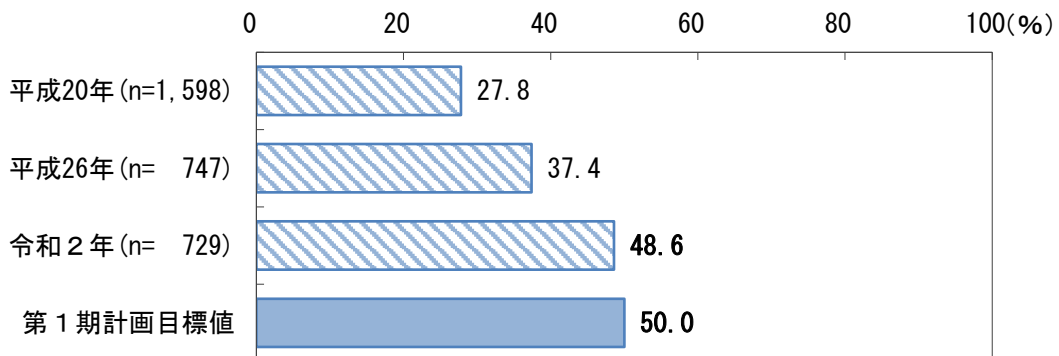
### 1 週1回以上のスポーツ実施率の向上

第1期計画では、誰もが、いつでも、どこでも身近で気軽にスポーツを楽しむ「市民ひとり1スポーツ」の実現に向け、「成人の週1回以上のスポーツ実施率50.0%」の成果目標を掲げ、各種スポーツ施策の推進を図ってきました。

#### (1) 成人の週1回以上のスポーツ実施率

関市が令和2年12月から16歳以上の市民を対象に実施した令和2年アンケート調査によると、週1回以上運動・スポーツをする市民の割合は48.6%と、平成20年の第1期計画策定時に実施した調査の27.8%に比べて20ポイント以上も上昇しましたが、目標の50%にはわずかに届きませんでした。

図表2-1 関市における成人の週1回以上のスポーツ実施率の推移



※平成20年及び令和2年の調査は16歳以上

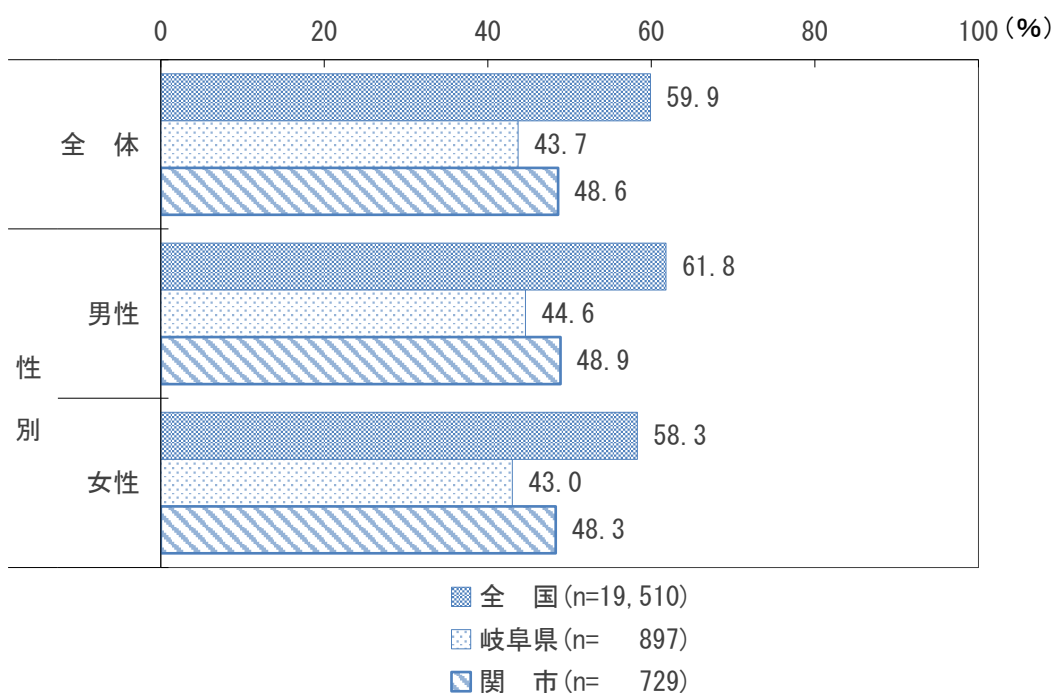


全国は、スポーツ庁が令和2年11月に実施した「スポーツの実施状況等に関する世論調査」によると、週1回以上運動・スポーツをする成人（20歳以上80歳未満）の割合が59.9%と、関市に比べて10ポイント以上も高くなっています。

岐阜県が令和2年2月から実施した「スポーツ実態調査」によると、週1回以上運動・スポーツをする成人（20歳以上80歳未満）の割合は43.7%と、関市に比べて低くなっています。

これらを性別にみても、同様の傾向にあります。

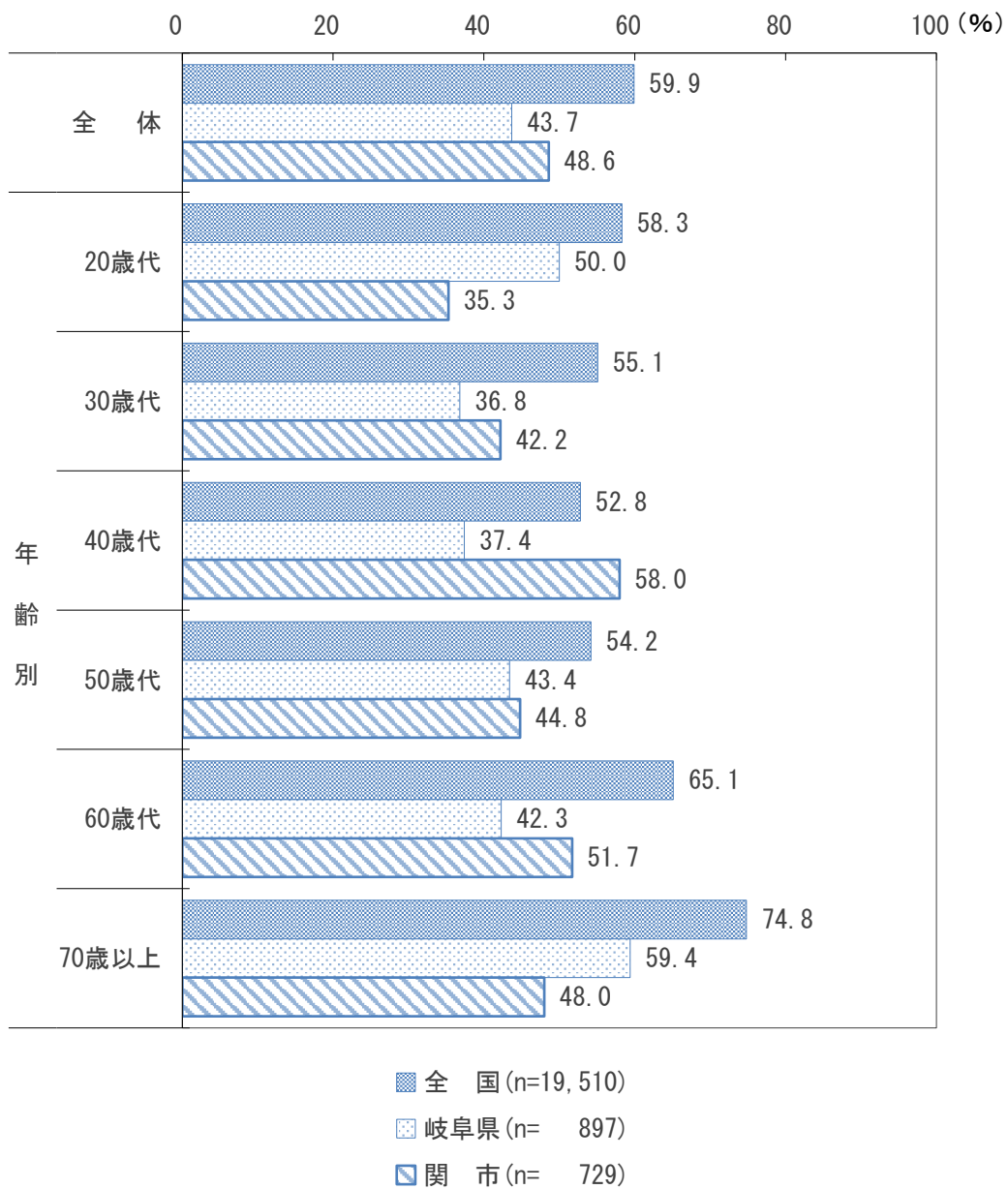
図表2-2 成人の週1回以上のスポーツ実施率の比較（令和2年、性別）



これらを年齢別にみると、全国、岐阜県では、概ね30～50歳代の子育てや働き盛りの世代の割合が比較的低くなっています。一方、関市は、40歳代の割合が最も高く、全国、岐阜県の割合を超えています。20歳代の若者と70歳以上の高齢者の割合は全国、岐阜県に比べて顕著に低くなっています。

若者や高齢者のスポーツに対する意識や親しむ機会をより高め、あらゆるライフステージにおいてスポーツを「する」習慣が持続する「生涯スポーツ」の一層の推進を図る必要があります。

図表2-3 成人の週1回以上のスポーツ実施率の比較（令和2年、年齢別）



## (2) 成人が実施したスポーツの種類

令和2年アンケート調査によると、直近の1年間に実施したスポーツは、「ウォーキング」（散歩などを含む）が60.5%と、「実施していない」（9.3%）を除く28の選択項目の中で突出して高く、次いで、「体操」が29.5%、「ランニング（ジョギング）等」と「キャッチボール等」が18.9%となっています。

なお、「ウォーキング」は、性別、年齢別にみても概ね最も高く、かつ、ほかの選択項目に比べて突出して高くなっています。「体操」「ランニング等」「キャッチボール等」も、性別、年齢別にかかわらず上位に入っていますが、これらの上位項目のほかに、女性、10歳代、20歳代では「テニス、バドミントン、卓球等」、50歳代では「運動器具を使用した室内運動」、70歳代では「ゲートボール等」も上位に入っています。ウォーキングやランニング、体操など、身近で自主的に取り組めるスポーツが中心となっていることがうかがえます。

また、「実施していない」を性別にみてもあまり差異はありませんが、年齢別にみると、60歳代が14.7%とほかに比べてやや高くなっています。

図表2-4 関市の成人がこの1年間に実施したスポーツ（令和2年、複数回答）

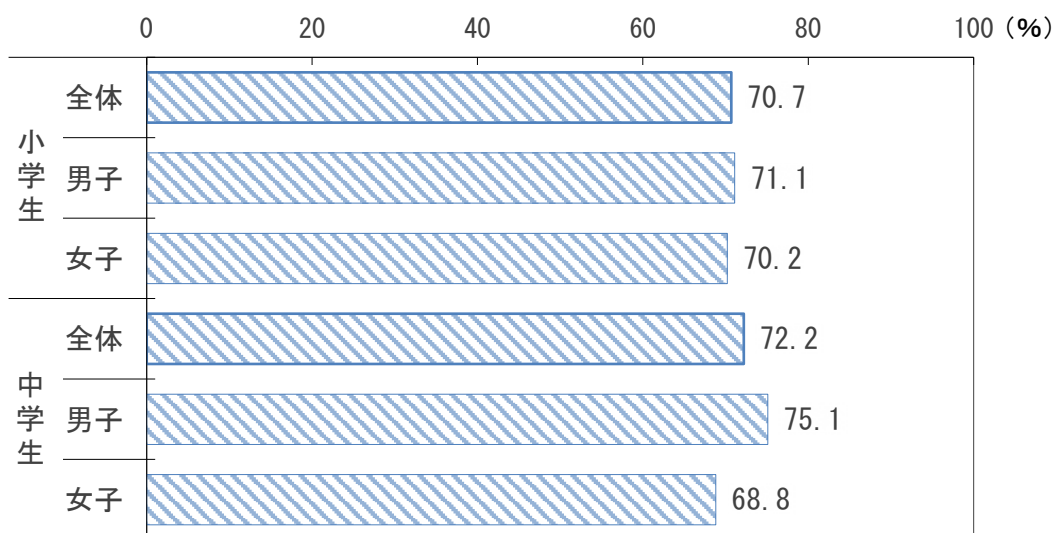
	第1	第2	第3	実施していない
全 体 (n=729)	ウォーキング (60.5%)	体操 (29.5%)	ランニング等/ キャッチボール等 (18.9%)	9.3%
男 性 (n=309)	ウォーキング (57.0%)	キャッチボール等 (26.2%)	ランニング等 (25.6%)	8.4%
女 性 (n=420)	ウォーキング (63.1%)	体操 (32.6%)	ランニング等/ テニス、バドミ ントン、卓球等 (14.0%)	10.0%
10歳代 (n=74)	ランニング等 (55.4%)	ウォーキング (50.0%)	テニス、バドミ ントン、卓球等 (40.5%)	2.7%
20歳代 (n=68)	ウォーキング (64.7%)	ランニング等 (36.8%)	体操/テニス、バド ミントン、卓球等 (25.0%)	8.8%
30歳代 (n=90)	ウォーキング (62.2%)	体操 (35.6%)	キャッチボール等 (25.6%)	6.7%
40歳代 (n=100)	ウォーキング (70.0%)	体操 (42.0%)	キャッチボール等 (29.0%)	8.0%
50歳代 (n=125)	ウォーキング (60.0%)	体操 (32.8%)	運動器具を使用した 室内運動 (16.0%)	10.4%
60歳代 (n=143)	ウォーキング (57.3%)	体操 (22.4%)	キャッチボール等 (13.3%)	14.7%
70歳代 (n=127)	ウォーキング (59.8%)	体操 (22.0%)	ゲートボール等 (12.6%)	9.4%

### (3) 小中学生の週1回以上のスポーツ実施率

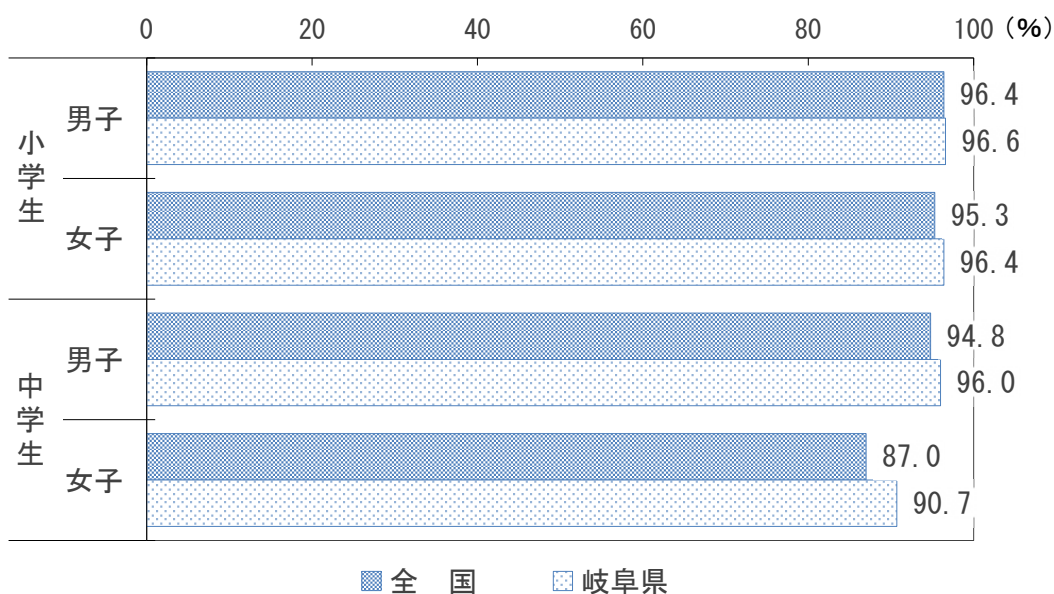
関市が小中学生を対象に実施した令和2年アンケート調査によると、学校の体育の授業以外に、週1回以上運動・スポーツをする小学生（5年生）の割合は70.7%、中学生（2年生）の割合は72.2%と、16歳以上の48.6%に比べて非常に高くなっています（図表2-5）。

全国は、文部科学省が毎年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」を実施していますが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により未実施であったため、令和元年度の調査をみると、岐阜県とともに概ね95%程度と非常に高くなっています（図表2-6）。

図表2-5 関市の小中学生の週1回以上のスポーツ実施率（令和2年）



図表2-6 全国・岐阜県（公立校）の小中学生の週1回以上のスポーツ実施率（令和元年）



#### (4) 小中学生が実施したスポーツの種類

令和2年アンケート調査によると、直近の1年間に実施したスポーツは、小学生では、「キャッチボール、ドッジボール」が86.1%と最も高く、次いで、「ウォーキング」（散歩などを含む）が68.6%、「ランニング（ジョギング）等」が48.0%となっています。

中学生は、成人と同様に、「ウォーキング」（散歩などを含む）が67.2%と最も高く、次いで、「キャッチボール、ドッジボール」が61.6%、「ランニング（ジョギング）等」が59.0%となっていますが、これらの上位項目のほかに、男子では「野球、ソフトボール」も上位に入っています。

キャッチボールやドッジボール、ウォーキング、ランニングなど、成人と同様に、身近で自主的に取り組めるスポーツが中心となっていることがうかがえます。

一方、「実施していない」は、小学生（0.1%）、中学生（1.5%）ともわずかとなっており、ほぼ何らかのスポーツを実施していることがうかがえます。

「生涯スポーツ」の一層の推進を図るためには、子どもの頃のスポーツを「する」習慣の持続を図っていくことも必要です。

図表2-7 関市の小中学生がこの1年間に実施したスポーツ（令和2年、複数回答）

	第1	第2	第3	実施していない
小学生 (n=794)	キャッチボール、ドッジボール (86.1%)	ウォーキング (68.6%)	ランニング等 (48.0%)	0.1%
男子 (n=415)	キャッチボール、ドッジボール (88.9%)	ウォーキング (67.5%)	ランニング等 (55.4%)	—%
女子 (n=379)	キャッチボール、ドッジボール (83.1%)	ウォーキング (69.9%)	体操 (44.1%)	0.3%
中学生 (n=731)	ウォーキング (67.2%)	キャッチボール、ドッジボール (61.6%)	ランニング等 (59.0%)	1.5%
男子 (n=394)	ウォーキング／キャッチボール、ドッジボール (68.8%)	ランニング等 (66.2%)	野球、ソフトボール (46.2%)	1.3%
女子 (n=337)	ウォーキング (65.3%)	キャッチボール、ドッジボール (53.1%)	ランニング等 (50.4%)	1.8%

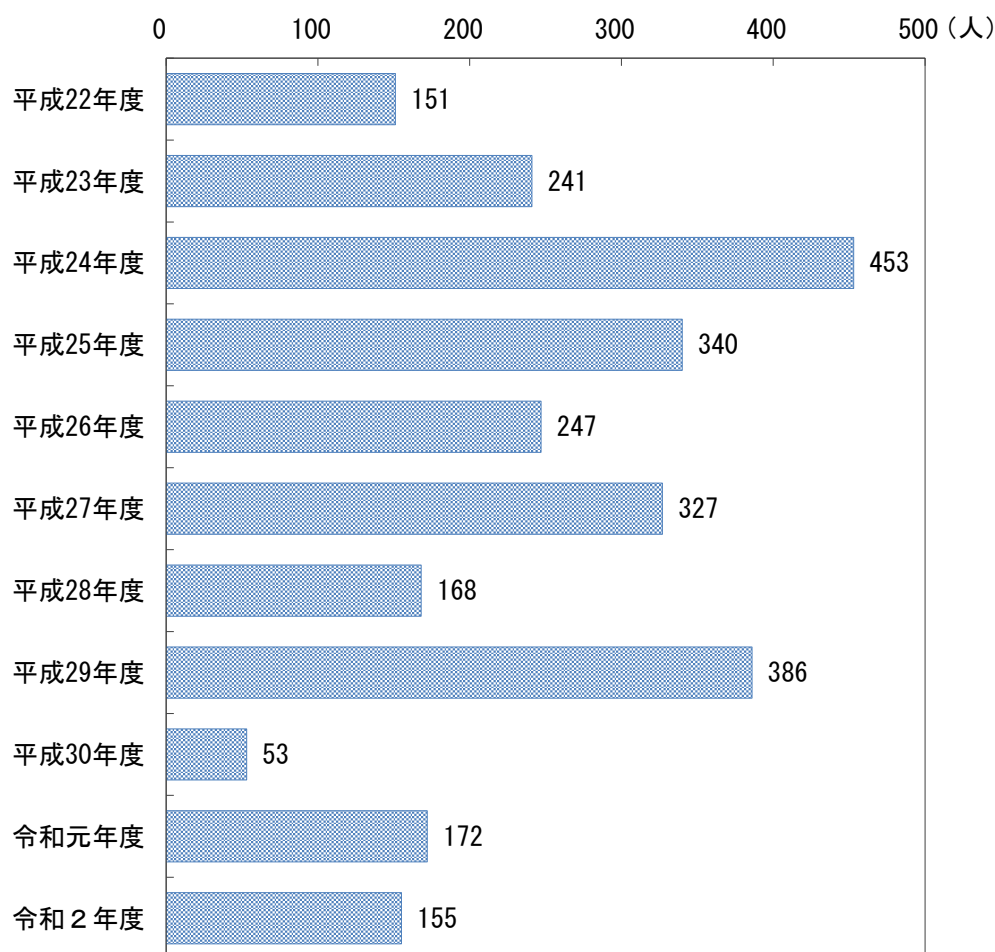
## 2 生涯スポーツ（「する」スポーツなど）の推進に向けて

第1期計画では、成果目標の達成に向け、スポーツを生活の中に根づかせ、誰もが、いつでも、どこでもスポーツを楽しむことができ、健康で活力に満ちた生活を送ることができるよう「生涯スポーツの推進」を掲げ、各種スポーツ教室・イベント・大会の開催などに取り組んできました。

### (1) ウォーキングイベントへの参加状況

令和2年アンケート調査において幅広い年代で最も実施されていることがわかった「ウォーキング」の推進にあたり、関市では、ウォーキングイベント「はもみん・はつらつウォーキング」を開催しています。「はもみん・はつらつウォーキング」の参加者数は、年度により増減がありますが、直近10年間で、平成24年度の453人をピークに概ね減少傾向にあります。

図表2-8 関市のウォーキングイベント（はもみん・はつらつウォーキング）参加者数の推移

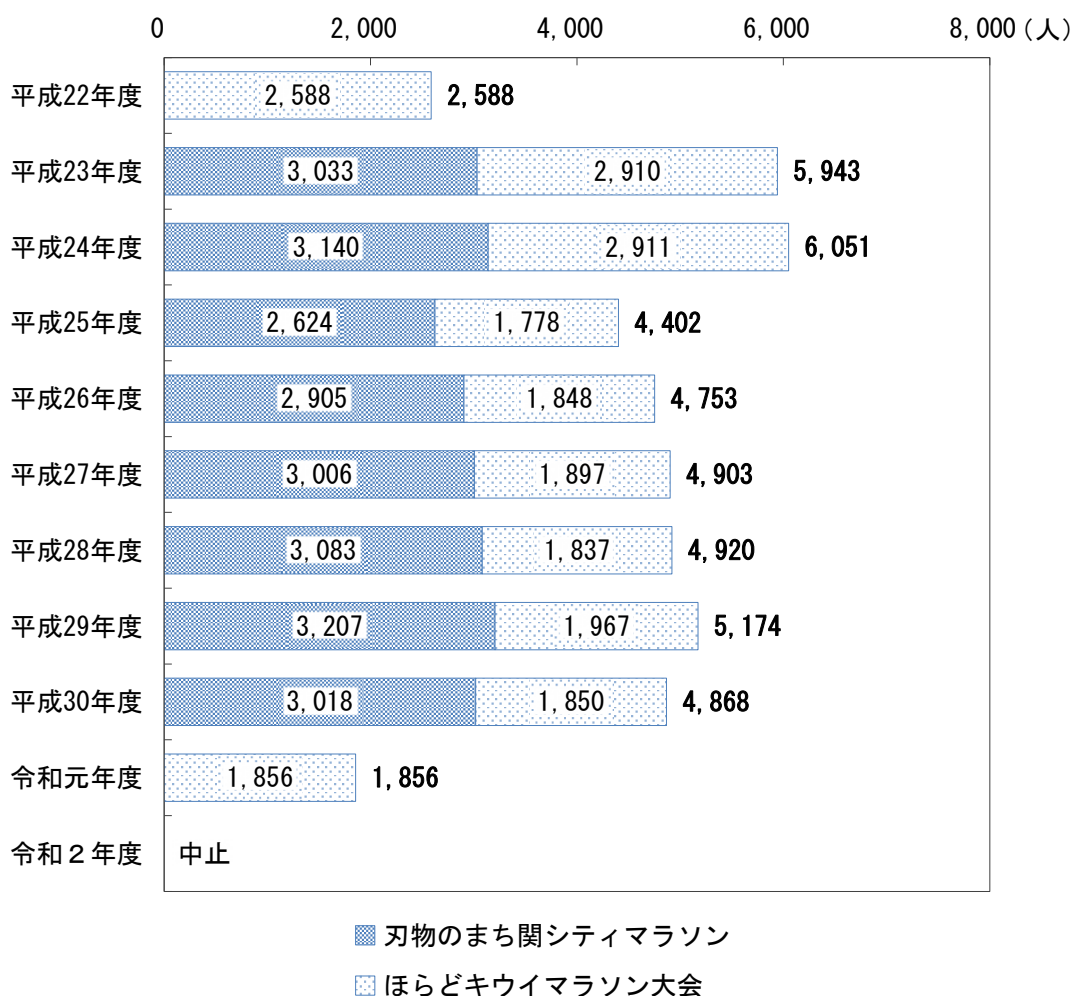


資料：関市スポーツ推進課

## (2) マラソン大会への参加状況

「生涯スポーツの推進」にあたり、ウォーキングイベントとともに取り組んでいるマラソン大会（刃物のまち関シティマラソン・ほらどキウイマラソン大会）の参加者数は、直近10年間では、平成24年度の6,051人をピークに、その後、概ね5,000人前後で推移しています。

図表2-9 関市のマラソン大会（刃物のまち関シティマラソン・ほらどキウイマラソン大会）参加者数の推移



※平成22年度と令和元年度の「刃物のまち関シティマラソン」も中止

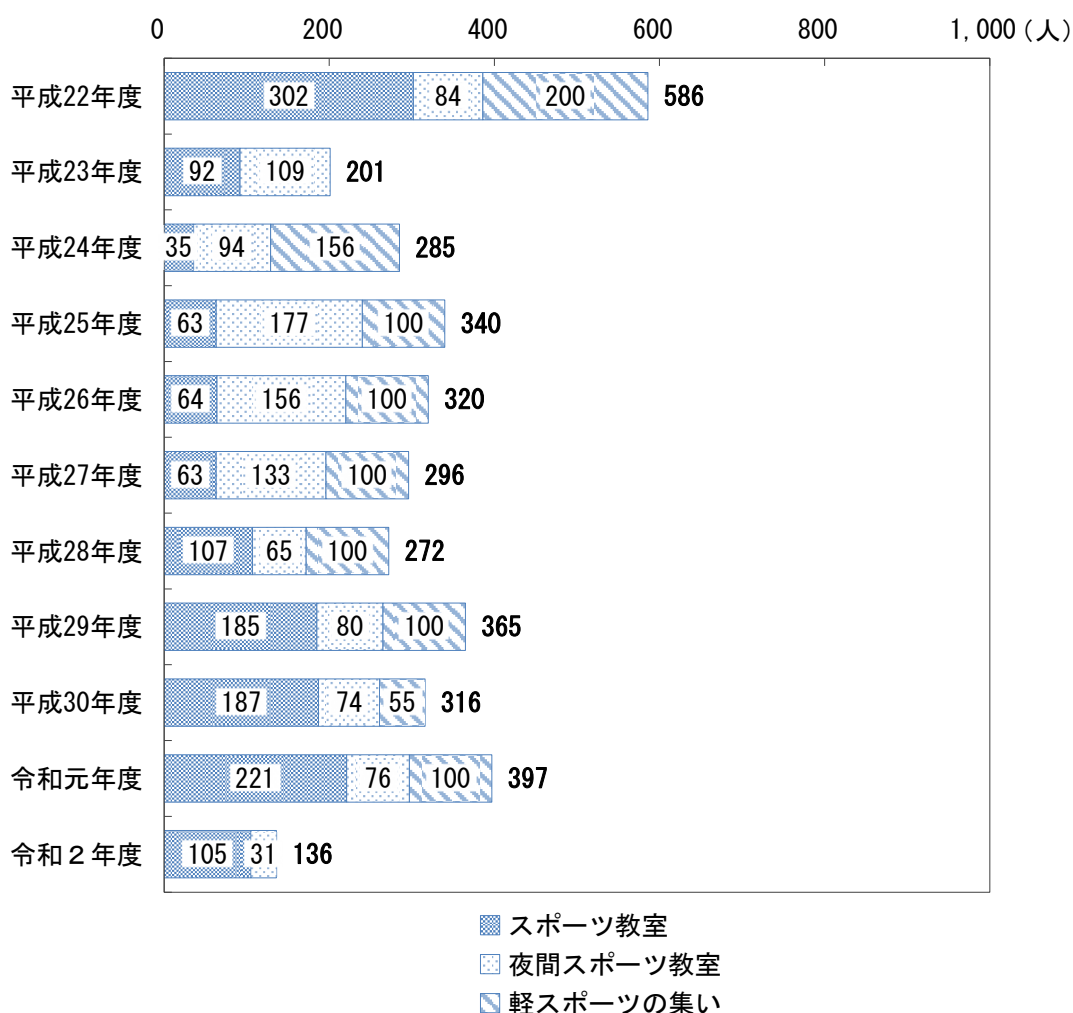
資料：関市スポーツ推進課

### (3) 成人向けスポーツ教室への参加状況

このほか、「生涯スポーツの推進」にあたり、各種スポーツ教室や障がいのある人なども気軽に参加できる「軽スポーツの集い」（令和2年度で終了）などを開催してきました。このうち、成人向けの「スポーツ教室」の参加者数は、直近10年間で増加傾向にあります。一方、「夜間スポーツ教室」の参加者数は、直近10年間で減少傾向にあります。一方、「軽スポーツの集い」の参加者数は、直近10年間ではほぼ横ばいです。

成人の週1回以上のスポーツ実施率がこの10年間で大きく上昇したものの、参加者数が伸び悩んでいる教室もあることから、ニーズ等に応じたよりきめ細かな展開を検討していく必要があります。

図表2-10 関市の成人向けスポーツ教室参加者数の推移



※平成23年度と令和2年度の「軽スポーツの集い」は中止

資料：関市スポーツ推進課

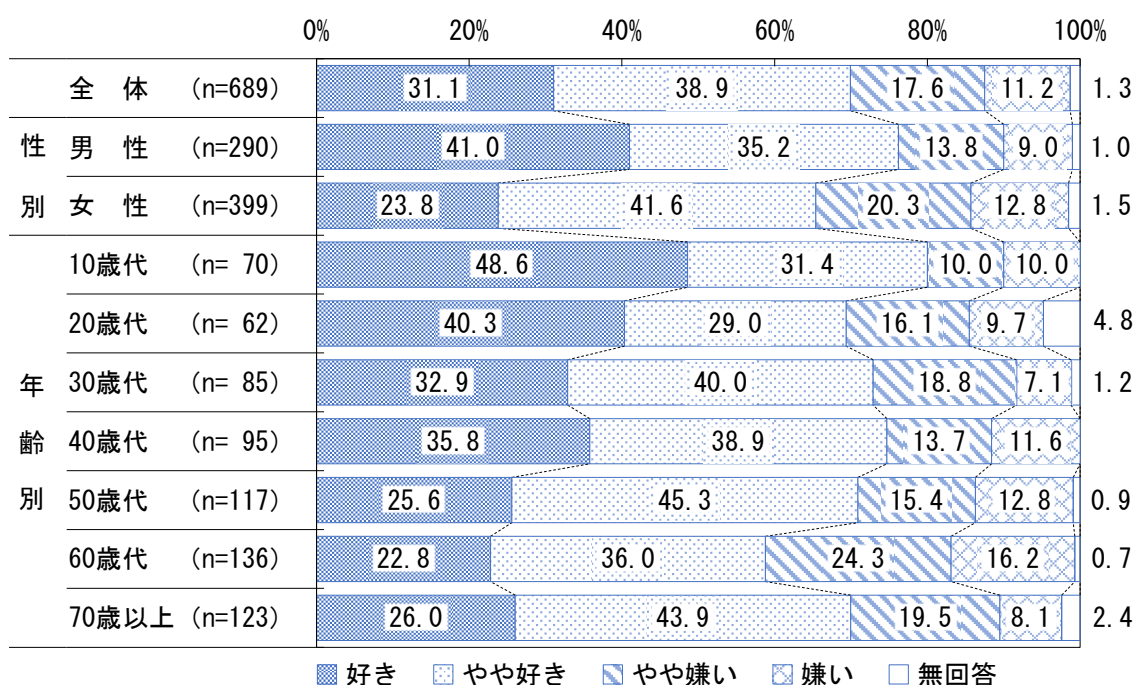


#### (4) 成人のスポーツ実施の好感度

令和2年アンケート調査において、16歳以上の市民に運動・スポーツを「する」ことが好きかたずねたところ、「好き」が31.1%となっており、これを性別にみると、女性は男性を大きく下回り、年齢別にみると、年齢が上がるほど低い傾向にあります。

これと「やや好き」(38.9%)を合わせた《好き》は7割を占め、「嫌い」(11.2%)と「やや嫌い」(17.6%)を合わせた《嫌い》を大きく上回っています。なお、《嫌い》は、性別では女性が男性に比べて高く、年齢別では直近の1年間にスポーツを実施していない割合が比較的高い60歳代が4割を超えています。

図表2-11 スポーツを「する」ことが好きな関市の成人の割合（令和2年）



なお、第1期計画期間における「生涯スポーツの推進」に向けた事業等の実績は、次のとおりです。

事業等		平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度
はもみん・はつらつウォーキング	参加者数	327	168	386	53	172
刃物のまち関シティマラソン	参加者数	3,006	3,083	3,207	3,018	中止
ほらどキウイマラソン大会	参加者数	1,897	1,837	1,967	1,850	1,856
駅伝競走大会	参加チーム数	149	中止	130	141	124
かみのほ元旦ジョギング大会	参加者数	214	219	213	208	244
せきサイクル・ツーリング in 津保川	参加者数	377	508	501	518	518
せきサイクル・ツーリング in 板取川	参加者数	519	509	505	528	515
板取カップバイクトライアルかぶどん大会	参加者数	61	30	中止	26	28
市民ゴルフ大会	参加者数	250	240	240	219	220
市民元旦サッカー大会	参加チーム数	59	56	56	55	53
町内対抗野球大会	参加チーム数	100	94	89	89	84
自治会対抗ソフトボール大会	参加チーム数	37	36	34	34	34
自治会対抗バレーボール大会	参加チーム数	40	34	35	33	33
自治会対抗グラウンド・ゴルフ大会	参加チーム数	53	48	44	49	44
職域野球大会	参加チーム数	45	42	37	39	34
市民友好職域バレーボール大会	参加チーム数	6	9	9	10	10
高齢者（シニア）ゲートボール大会	参加チーム数	27	26	23	18	18
つぼがわスポレク祭	参加者数	325	317	238	中止	廃止
スポーツ教室 （夜間の教室を含む）	講座数	17	18	19	25	21
	参加者数	196	172	265	261	297
スポーツ教室託児サービス事業	講座数	5	5	8	12	12
	利用者数	25	14	20	35	15
軽スポーツの集い	参加者数	100	100	100	55	100
* 2016 ポールゲームフェスタ	参加者数	—	203	—	—	—
* ふどうの森トレイルラン	参加者数	—	109	218	281	325
* チャレンジデー	参加者数	—	—	37,933	45,942	47,512
* スポーツ講演会	参加者数	—	—	300	100	250

\* は第1期計画期間に新たに実施した事業等

### 3 競技スポーツ（「する」「みる」スポーツ）の推進に向けて

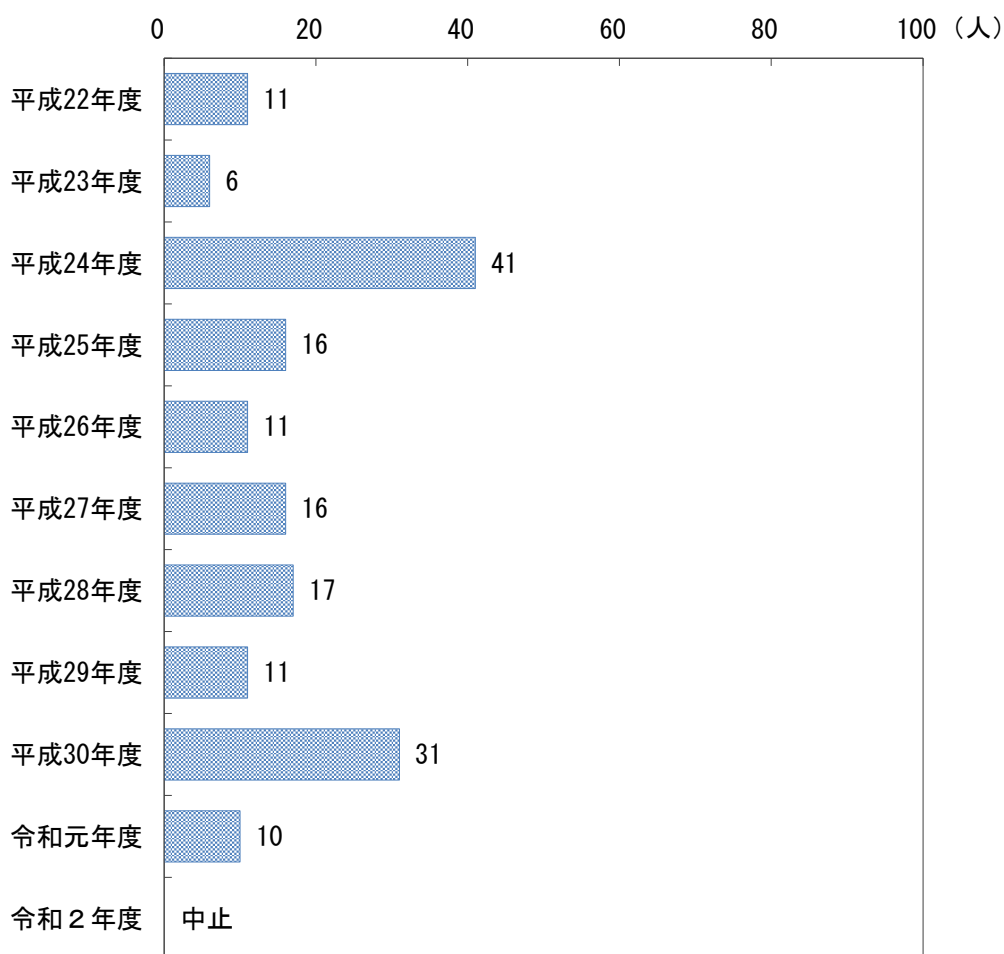
第1期計画では、成果目標の達成に向け、競技力の向上を図り、全国的な大会において活躍できる選手・チームを育成していくとともに、「みる」スポーツも楽しむことができるよう「競技スポーツの推進」を掲げ、各競技団体への支援のほか、スポーツ観戦の機会の提供などに取り組んできました。

#### (1) 国民体育大会への出場状況

競技スポーツの成果を発揮する場であり、日本最大のスポーツの祭典である「国民体育大会」への関市からの出場者数は、直近10年間では、岐阜県で開催された平成24年度が41人と最も多く、次いで、福井県で開催された平成30年度が31人となっているほかは概ね10人程度となっています。

なお、令和3年7月から開催された東京オリンピックでは、関市在住の久保田愛夏選手がカヌー競技に出場されました。

図表2-12 関市の国民体育大会出場者数の推移



資料：関市スポーツ推進課

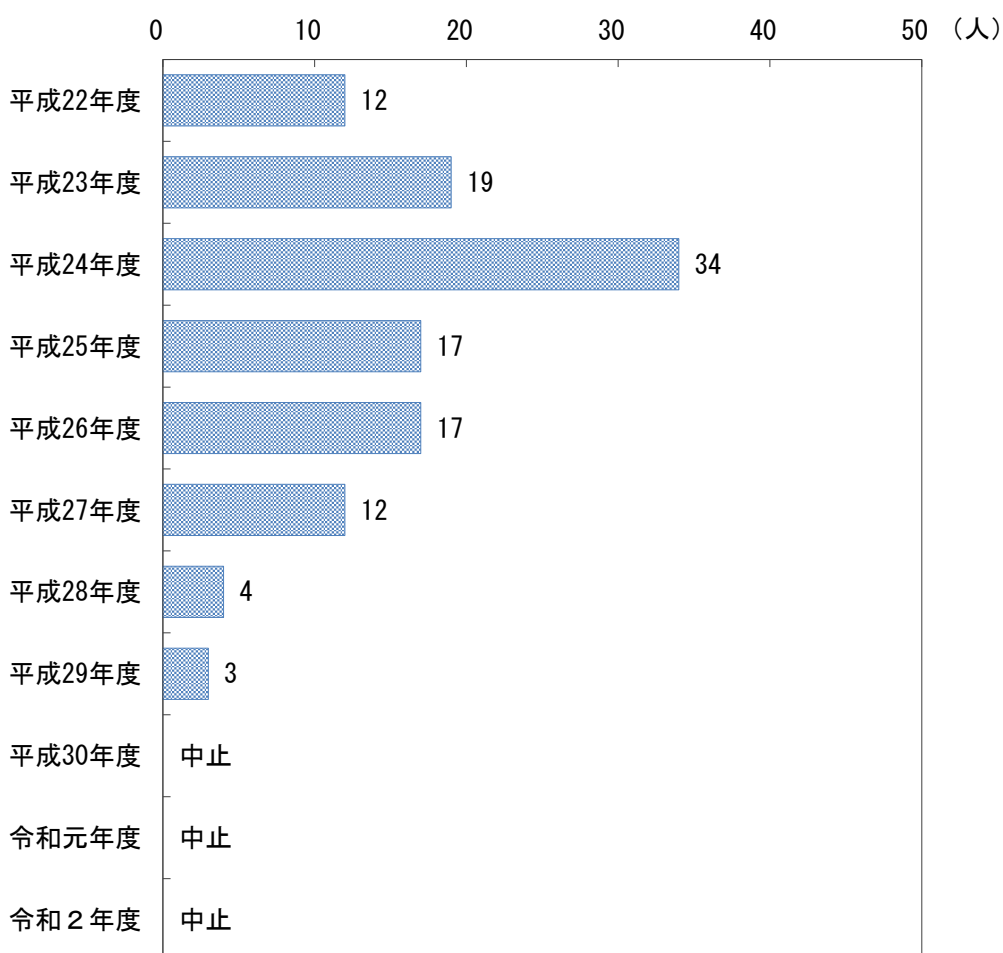
## (2) 全国障害者スポーツ大会への出場状況

「国民体育大会」の後に同じ開催地で行われる障がいのある人のスポーツ大会「全国障害者スポーツ大会」への関市からの出場者数は、直近10年間では、岐阜県で開催された平成24年度の34人をピークに減少傾向にあります。

なお、令和3年8月から開催された東京パラリンピックでは、関市立関商工高等学校出身の藤原由衣選手が柔道競技に出場されました。

関市で育った、あるいは、関市にゆかりのある選手が、こうした国内大会や国際大会に出場し、活躍する姿を「みる」ことは、市民、とりわけ子どもたちに夢や感動をもたらし、スポーツへの関心や興味が高まるとともに、選手たちを応援する意識の醸成にもつながると考えられます。

図表2-13 関市の全国障害者スポーツ大会出場者数の推移



資料：関市スポーツ推進課

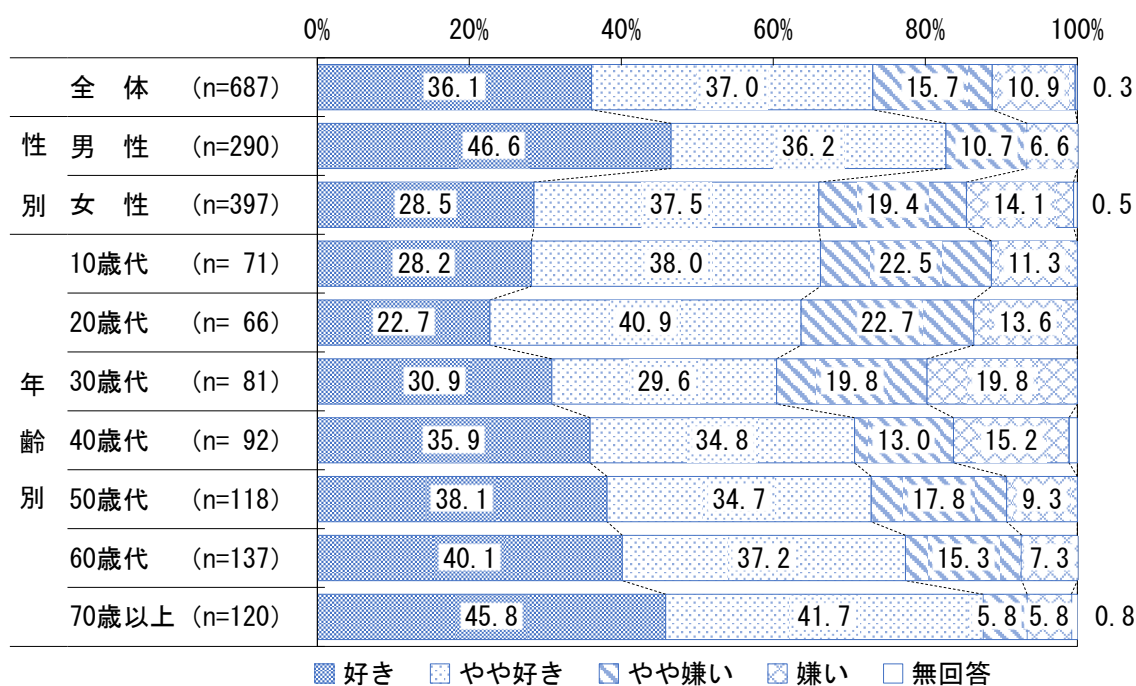
### (3) 成人のスポーツ観戦の好感度

東京オリンピック・パラリンピックの開催準備が進められる中で実施した令和2年アンケート調査において、16歳以上の市民にスポーツを「みる」ことが好きかたずねたところ、「好き」は36.1%でした。これを性別にみると、女性が男性を大きく下回り、年齢別にみると、スポーツ実施の好感度（図表2-11）とは異なり、年齢が上がるほど高い傾向にあります。

これと「やや好き」(37.0%)を合わせた《好き》は7割を超え、「嫌い」(10.9%)と「やや嫌い」(15.7%)を合わせた《嫌い》を大きく上回っています。なお、《嫌い》は、年齢別にみると、若者でやや高く、30歳代をピークに年齢が上がるほど低い傾向にあります。

特に女性や若者に向けたスポーツを「みる」機会の提供やその工夫に取り組むなど、スポーツを「する」ことだけでなく、「みる」ことも促し、スポーツに親しむ市民を増やしていくことも必要です。

図表2-14 スポーツを「みる」ことが好きな関市の成人の割合（令和2年）



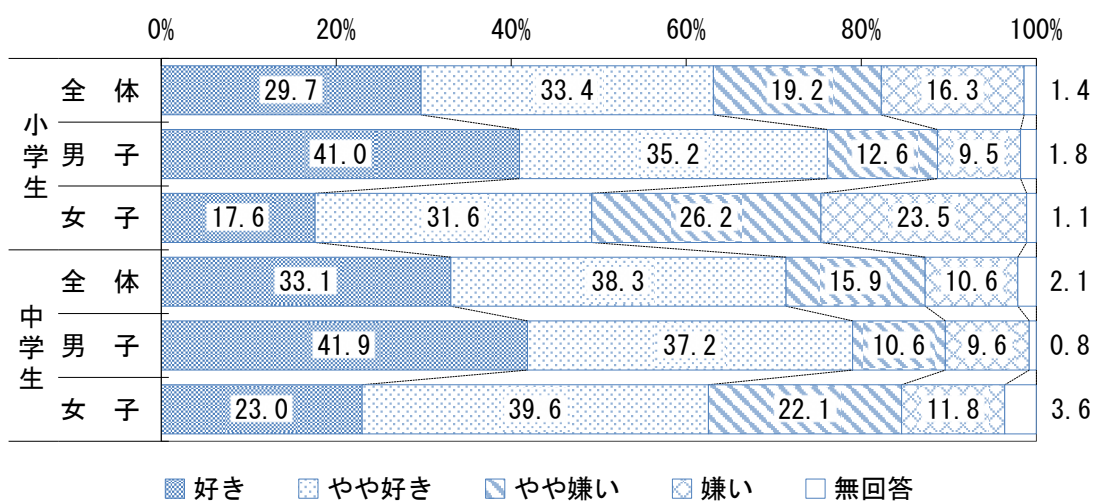
#### (4) 小中学生のスポーツ観戦の好感度

令和2年アンケート調査において、小中学生にもスポーツを「みる」ことが好きかたずねたところ、「好き」は、小学生（5年生）が29.7%、中学生（2年生）が33.1%と、成人の36.1%（図表2-14）に比べて、小学生、中学生ともやや低くなっています。これを性別にみると、成人と同様、女性が男性を大きく下回っています。

これと「やや好き」（小学生33.4%、中学生38.3%）を合わせた《好き》は、小学生で6割、中学生で7割を超え、「嫌い」（小学生16.3%、中学生10.6%）と「やや嫌い」（小学生19.2%、中学生15.9%）を合わせた《嫌い》をいずれも大きく上回っています。しかし、これらを性別にみると、小学生の女子では《嫌い》と《好き》がほぼ同程度となっています。

特に女子のスポーツを「みる」関心を高めていくことにより、スポーツを「する」ことと同様、子どもの頃からスポーツへの関わりを増やしていく必要があります。

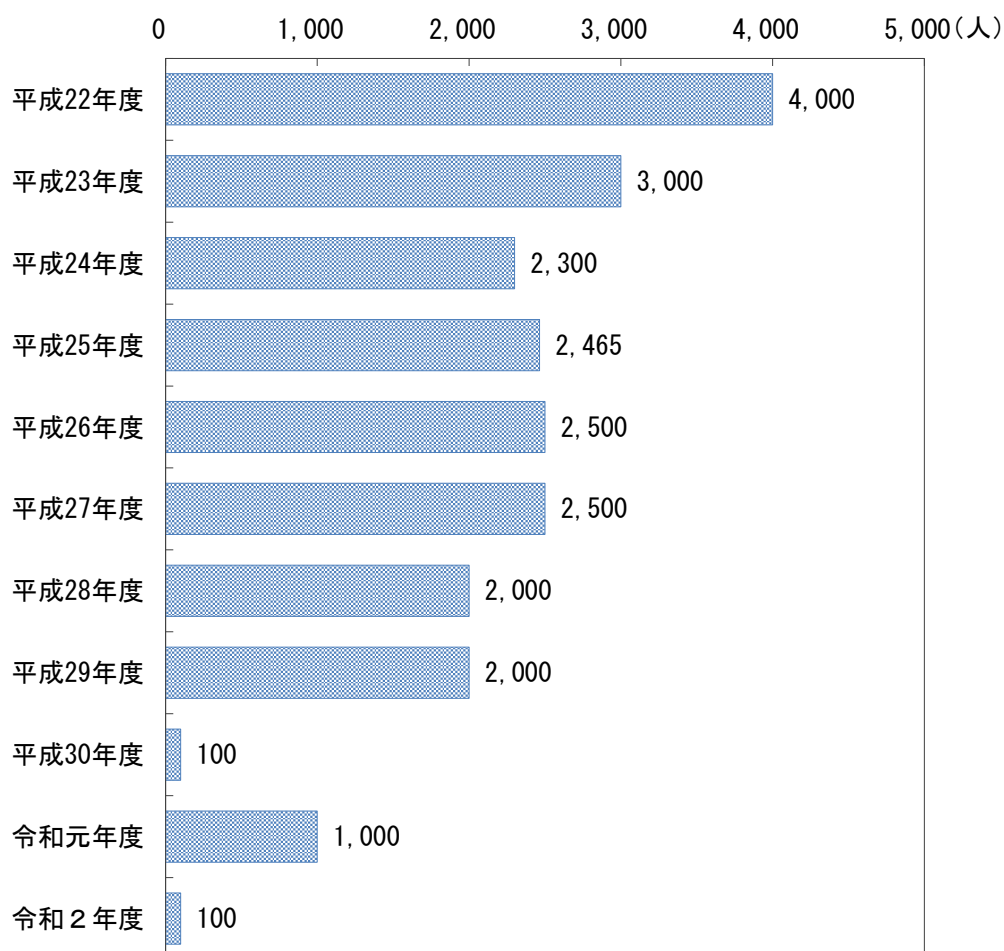
図表2-15 スポーツを「みる」ことが好きな関市の小中学生の割合（令和2年）



## (5) ラグビーフットボールフェスティバルへの参加状況

関市を代表するスポーツであり、市民の関心が比較的高いと考えられる競技として「ラグビー」が挙げられます。関市では、一般財団法人関市スポーツ協会（以下、「関市スポーツ協会」といいます。）等と連携し、ラグビースクールや他地域との交流試合を行う「ラグビーフットボールフェスティバル」を毎年開催していますが、直近10年間では、参加者数が減少傾向にあります。

図表2-16 ラグビーフットボールフェスティバル（関市）参加者数の推移



資料：関市スポーツ推進課

## (6) カローリングジャパンカップ等への参加状況

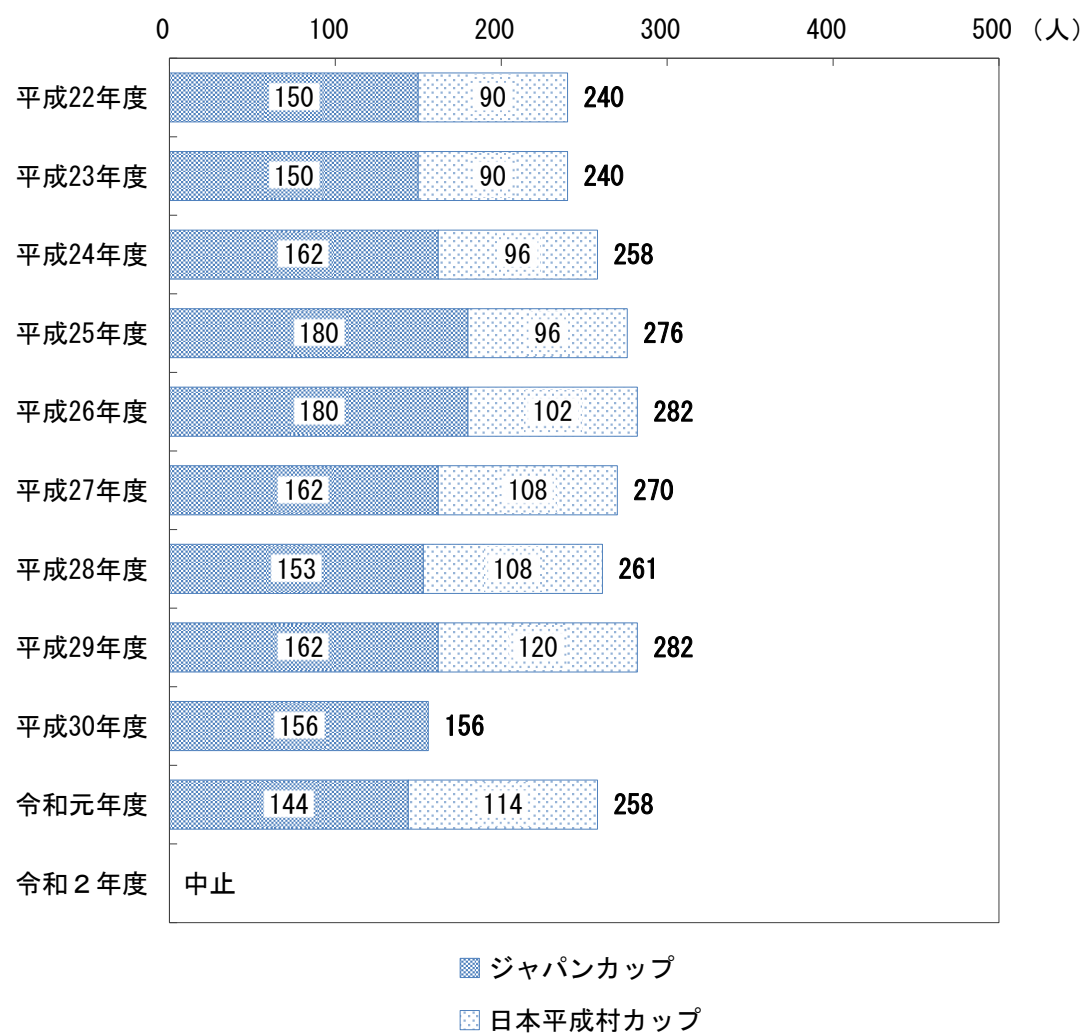
関市の武儀地域では、「カローリング」への関心が高く、「カローリング日本平成村カップ」のほか、全国各地から選手が集まる「カローリングジャパンカップ」を毎年開催しています。

「カローリング」は、冬季オリンピック競技である「カーリング」からヒントを得て平成5年に誕生したインドアスポーツで、子どもから高齢者まで年齢、性別、体力に関係なく、気軽に取り組める競技です。

「カローリングジャパンカップ」等の参加者数は、直近10年間では、概ね横ばいで推移しています。

地域にとって、より身近なスポーツに触れることにより、スポーツに対する興味を深め、スポーツを「する」「みる」関心が高まることが期待されます。

図表2-17 カローリングジャパンカップ等（関市）参加者数の推移



※平成30年度の「日本平成村カップ」も中止

資料：関市スポーツ推進課



なお、第Ⅰ期計画期間における「競技スポーツの推進」に向けた事業等の実績は、次のとおりです。

事業等		平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度
ラグビーフットボールフェスティバル	参加者数	2,500	2,000	2,000	100	1,000
カローリングジャパンカップ	参加チーム数	54	51	54	52	48
カローリング日本平成村カップ	参加チーム数	36	36	40	中止	38
プロ・アマチュアスポーツの誘致	開催回数	1	0	0	1	1
・FC 岐阜パブリックビューイング	観客数	150	—	—	—	—
・ラグビートップチーム招待試合	観客数	—	—	—	1,500	—
・ラグビー南アフリカ代表チームキャンプ公開練習	観客数	—	—	—	—	2,000

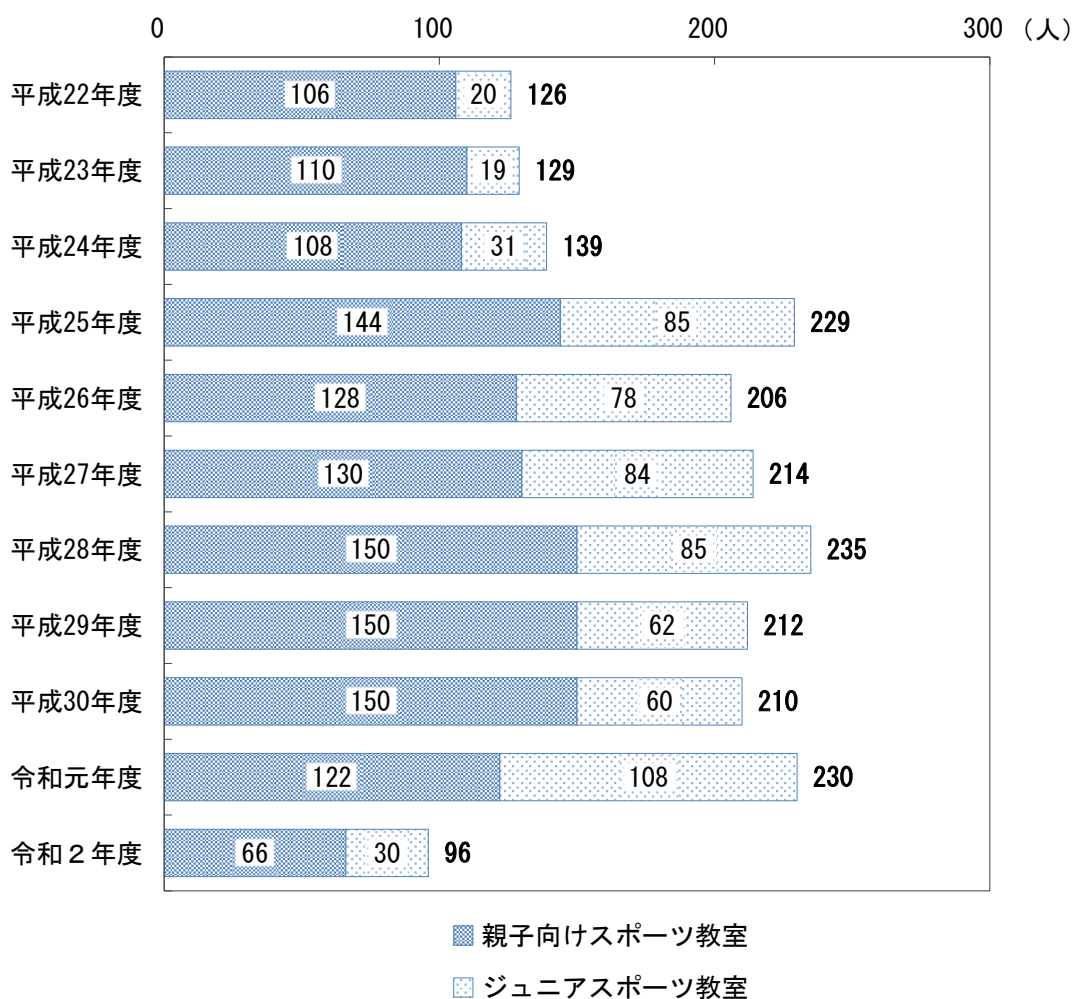
## 4 子どもの運動・スポーツ活動（「する」スポーツなど）の推進に向けて

第1期計画では、成果目標の達成に向け、子どもが学校だけでなく、家庭や地域社会における日常生活においても、自ら進んで運動・スポーツ活動を実践できるよう「子どもの運動・スポーツ活動の推進」を掲げ、親子向け・ジュニアスポーツ教室の開催のほか、総合型地域スポーツクラブの育成やスポーツ少年団等との連携に取り組んできました。

### (1) 親子向け・ジュニアスポーツ教室への参加状況

「子どもの運動・スポーツ活動の推進」にあたり、親子で楽しめる各種スポーツ教室や子どもの運動能力の向上を目指したジュニアスポーツ教室を開催しています。いずれの参加者数も、平成25年度以降は、概ね横ばいで推移しています。

図表2-18 関市の親子向け・ジュニアスポーツ教室参加者数の推移



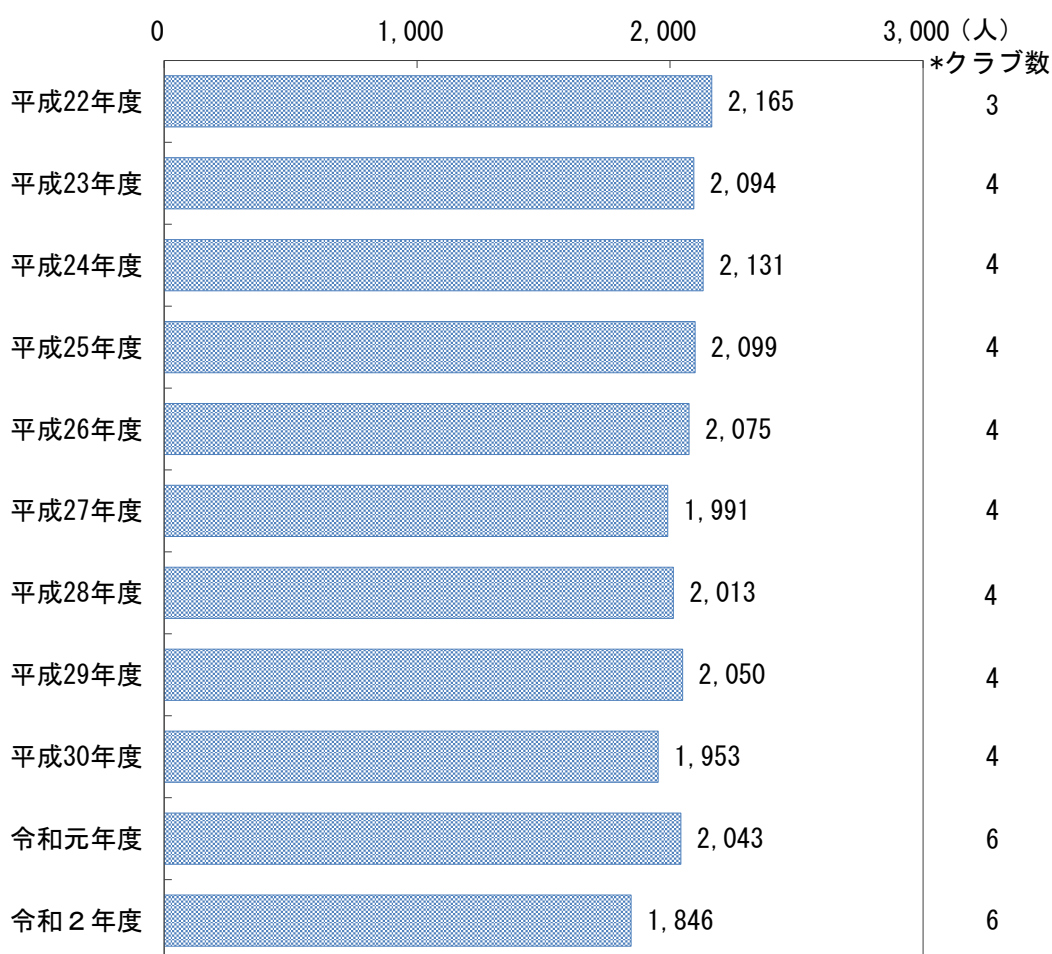
資料：関市スポーツ推進課

## (2) 総合型地域スポーツクラブへの参加状況

総合型地域スポーツクラブは、単一の種目でなく、複数の種目が設けられ、子どもから高齢者まで、誰もが集い、それぞれが年齢、興味・関心、体力、技能・技術レベルなどに応じて活動でき、教室やイベント等を通じて様々な形でスポーツを楽しむことができる地域密着のスポーツクラブです。

関市では、総合型地域スポーツクラブの設立、育成の支援に取り組み、現在のクラブ数は6団体と増加していますが、直近10年間では、所属する会員の総数はほぼ横ばいで推移しています。

図表 2-19 関市の総合型地域スポーツクラブ会員数の推移

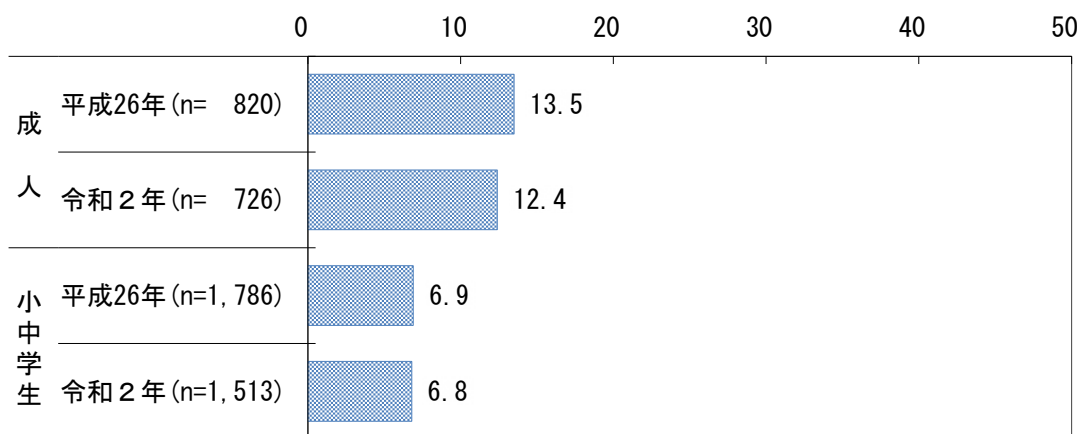


資料：関市スポーツ推進課

令和2年アンケート調査において、16歳以上の市民（図表2-20では「成人」と表しています。）と小中学生に「総合型地域スポーツクラブ」のことを聞いたことがあるかたずねたところ、「聞いたことがある」と答えたのは、16歳以上の市民が12.4%、小中学生が6.8%と低く、いずれも前回・平成26年アンケート調査とほぼ同程度となっています。

総合型地域スポーツクラブは、地域コミュニティが衰退する中、スポーツを通じてコミュニティを形成し、生涯にわたり豊かな生活を送るために必要な組織です。子どもの頃からその存在を認識し、いつでも参加することができるよう普及啓発に一層取り組む必要があります。

図表2-20 関市における総合型地域スポーツクラブの認知度

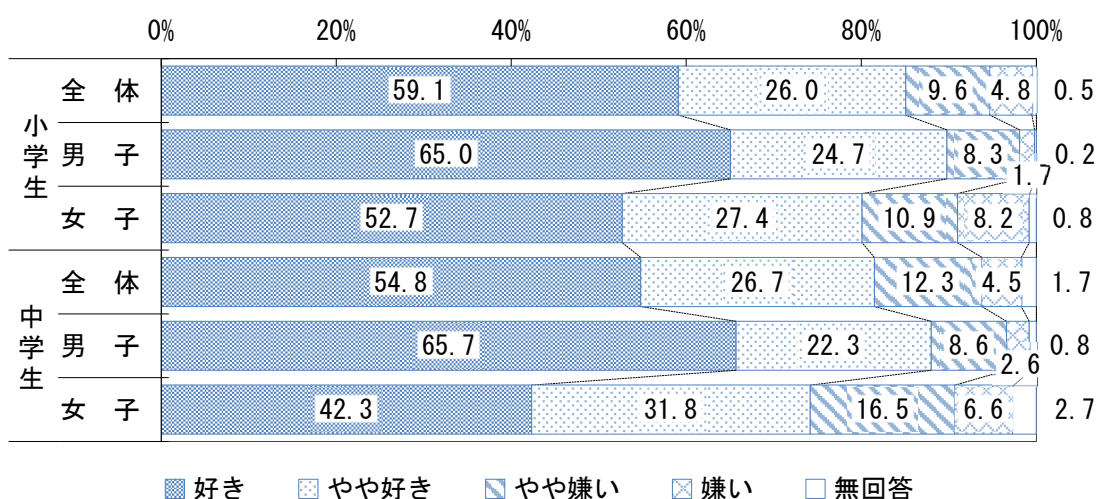


### (3) 子どものスポーツ実施の好感度

令和2年アンケート調査において、小中学生にスポーツを「する」ことが好きかたずねたところ、「好き」は、小学生（5年生）が59.1%、中学生（2年生）が54.8%と、成人の31.1%（図表2-11）に比べて、小学生、中学生とも高くなっています。これを性別にみると、成人と同様、女性が男性を大きく下回っています。

これと「やや好き」（小学生26.0%、中学生26.7%）を合わせた《好き》は、小学生、中学生とも8割を超え、「嫌い」（小学生4.8%、中学生4.5%）と「やや嫌いである」（小学生9.6%、中学生12.3%）を合わせた《嫌い》をいずれも大きく上回っています。

図表2-21 スポーツを「する」ことが好きな関市の小中学生の割合（令和2年）



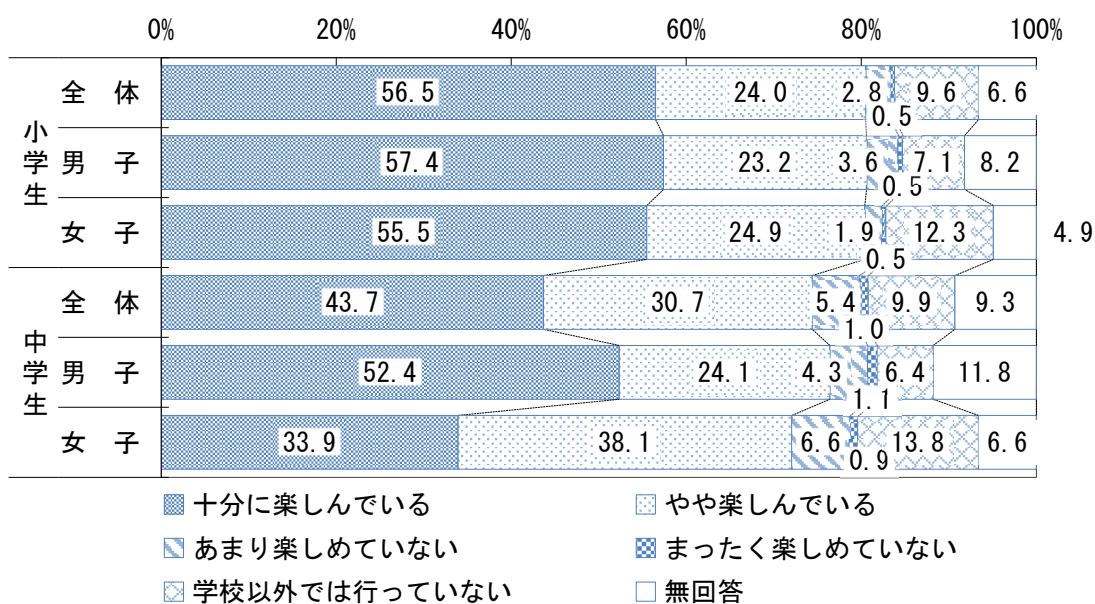
#### (4) 学校以外でのスポーツの実施状況

小中学生に学校以外でもスポーツを楽しんでいるかたずねたところ、「十分に楽しんでいる」は、小学生（5年生）が56.5%、中学生（2年生）が43.7%と、中学生の方が低くなっています。これを性別にみると、中学生では女性が男性を大きく下回っています。

これと「やや楽しんでいる」（小学生24.0%、中学生30.7%）を合わせた《楽しんでいる》は、小学生で8割、中学生で7割を超え、「まったく楽しめていない」（小学生0.5%、中学生1.0%）と「あまり楽しめていない」（小学生2.8%、中学生5.4%）を合わせた《楽しめていない》をいずれも大きく上回っています。

なお、「学校以外では行っていない」は、小学生が9.6%、中学生が9.9%と低くなっています。

図表2-22 学校以外でスポーツを楽しんでいる関市の小中学生の割合（令和2年）



なお、第1期計画期間における「子どもの運動・スポーツ活動の推進」に向けた事業等の実績は、次のとおりです。

事業等	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
学校開放施設（体育館・グラウンド）の地域開放	施設数	30	28	28	28

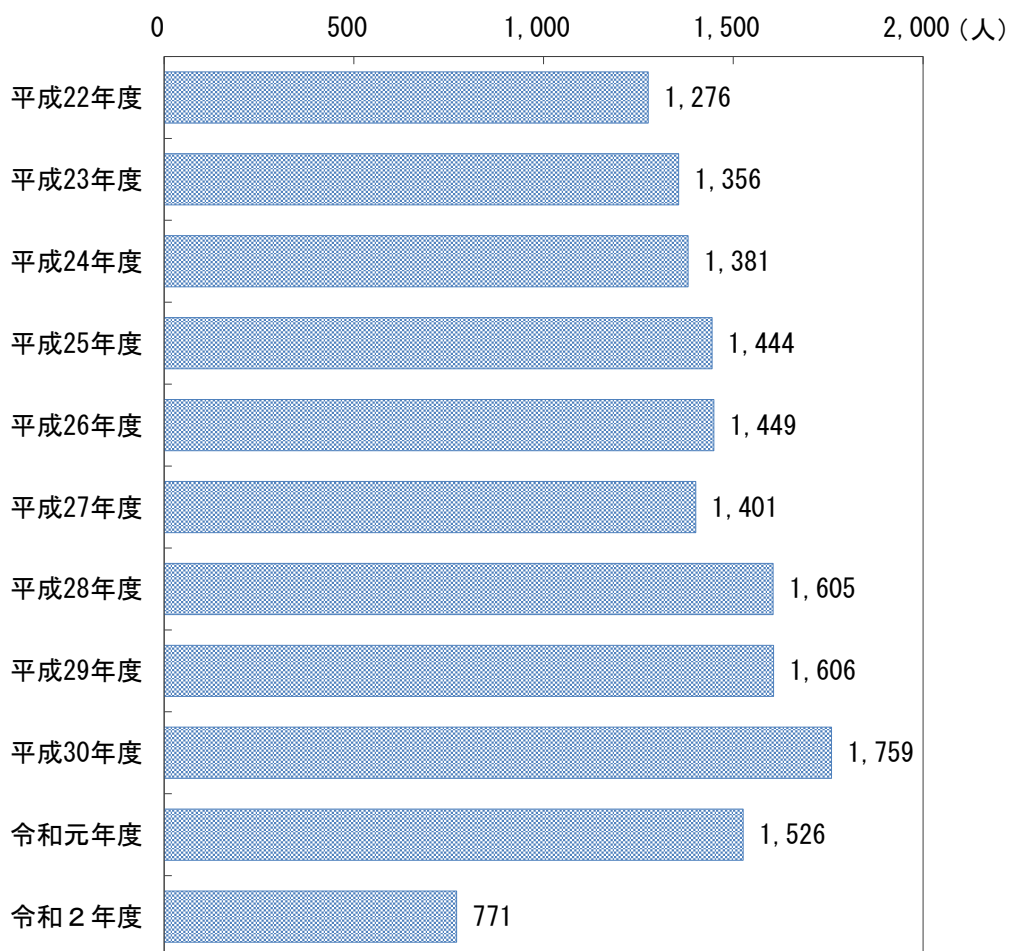
## 5 ささえるスポーツの推進に向けて

第1期計画では、成果目標の達成に向け、生涯スポーツや競技スポーツ、子どもの運動・スポーツ活動を支える指導者の育成・確保を図るとともに、多くの市民がスポーツボランティアとして関与し、活躍できるよう「ささえるスポーツの推進」を掲げ、スポーツ推進委員やボランティア等の育成に取り組んできました。

### (1) スポーツ推進委員の活動状況

スポーツ推進委員は、スポーツ基本法に基づき、市町村が委嘱し、スポーツの推進のための事業の実施ほか、スポーツに関する指導や助言を行う人たちです。関市には、現在41人のスポーツ推進委員が活動しています。なお、年間の活動延べ人数にすると、直近10年間では、増加傾向にあり、平成30年度が1,759人と最も多くなっています。

図表2-23 関市のスポーツ推進委員年間活動延べ人数の推移

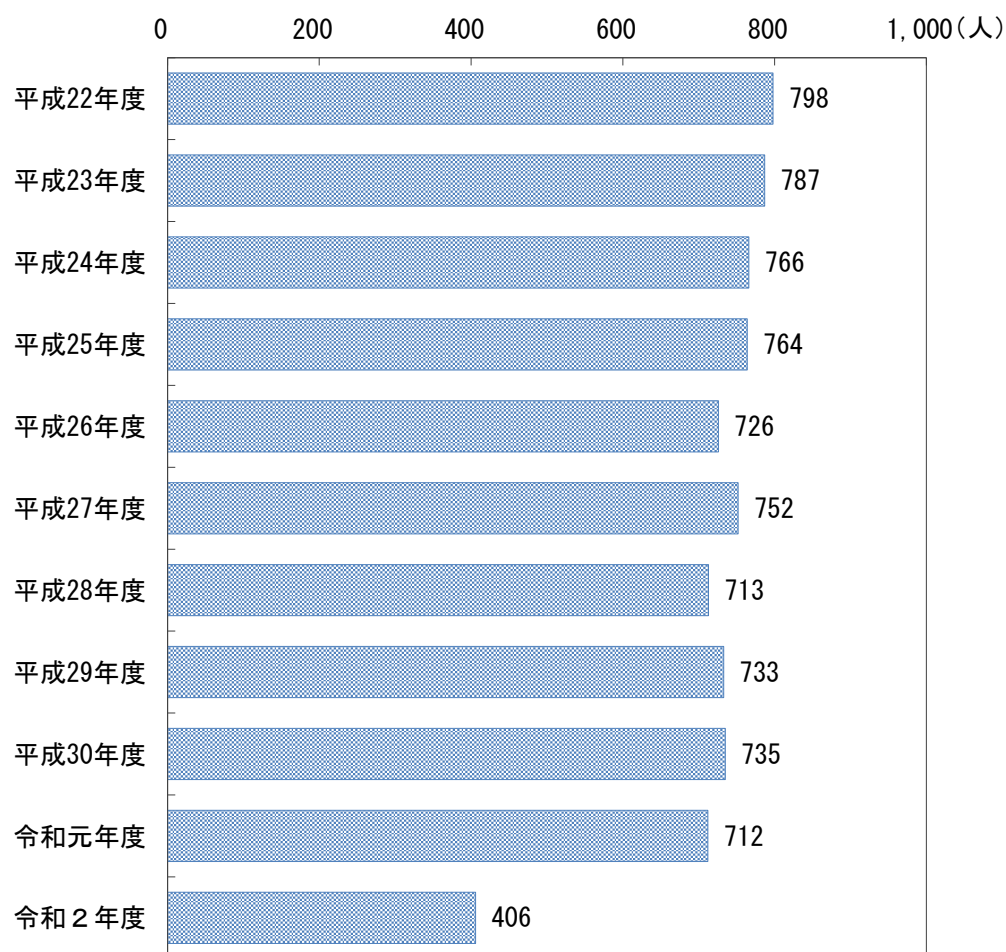


資料：関市スポーツ推進委員会

## (2) スポーツ指導者の確保状況

令和2年度にスポーツ少年団指導者資格が日本スポーツ協会公認指導者資格に移行される制度改正が行われました。これにより、関市におけるスポーツ少年団の指導者数は、406人と大きく減少していますが、それまで直近10年間は緩やかに減少していました。今後の推移に注視しつつ、指導者の確保に取り組む必要があります。

図表2-24 関市のスポーツ少年団指導者数（登録者数）の推移



資料：関市スポーツ推進課

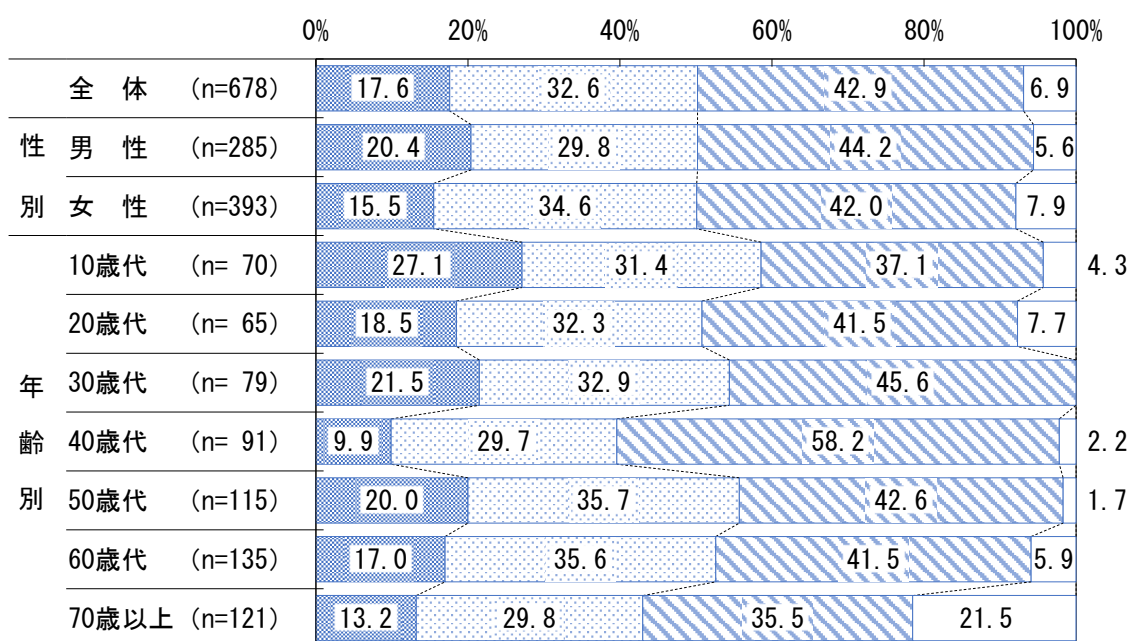


### (3) 成人のスポーツボランティアへの意識

令和2年アンケート調査において、16歳以上の市民に、今後、スポーツに関するボランティア活動をしたいかたずねたところ、「ボランティアをしたい」は17.6%と、「ボランティアをしたくない」(32.6%)より低くなっています。なお、「わからない」が4割を占めています。

「ボランティアをしたい」を性別にみると、男性が女性に比べてやや高く、年齢別にみると、10歳代が高く、年齢が上がるほど低い傾向にあります。

図表2-25 スポーツボランティアをしたいと思う関市の成人の割合（令和2年）



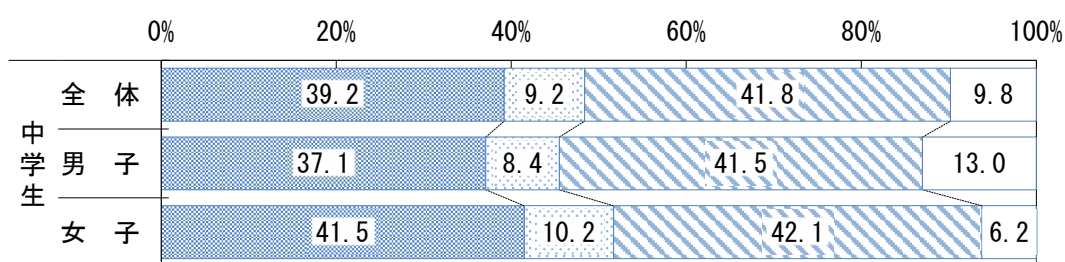
■ ボランティアをしたい □ ボランティアをしたくない ▨ わからない □ 無回答

#### (4) 中学生のスポーツボランティアへの意識

令和2年アンケート調査において、中学生にも、今後、スポーツに関するボランティア活動をしたいたずねたところ、「ボランティアをしたい」は39.2%と、成人の17.6%（図表2-25）より高く、「ボランティアをしたくない」も9.2%と成人の32.6%よりも顕著に低くなっています。なお、「わからない」は成人と同様に4割を占めています。

子どもの頃のスポーツボランティアへの意欲をより高めていくとともに、その意識が生涯にわたり持続するよう普及啓発の推進を図る必要があります

図表2-26 スポーツボランティアをしたいと思う関市の中学生の割合（令和2年）



■ ボランティアをしたい □ ボランティアをしたくない ▨ わからない □ 無回答

なお、第1期計画期間における「ささえるスポーツの推進」に向けた事業等の実績は、次のとおりです。

事業等		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
スポーツ推進委員研修会	開催回数	8	8	8	8	8
スポーツボランティア登録制度	登録者数	16	16	16	16	18

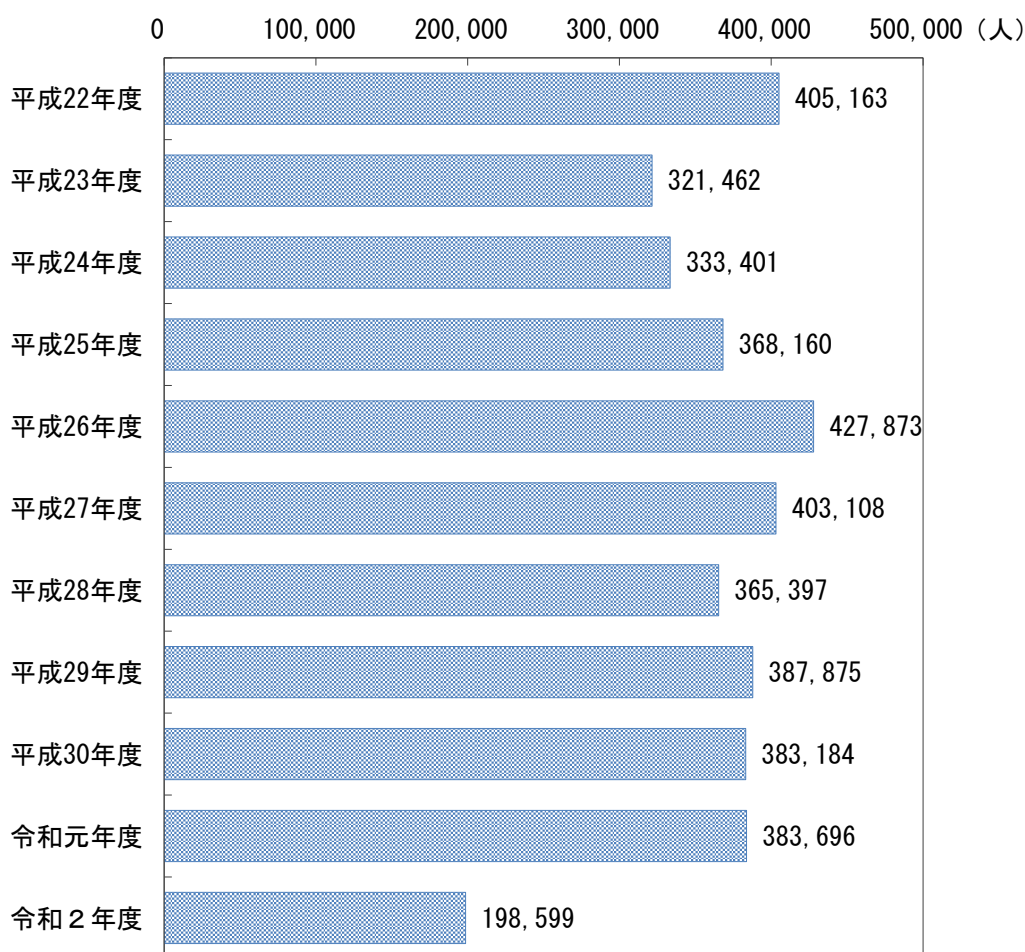
## 6 スポーツ環境の諸整備に向けて

第1期計画では、成果目標の達成に向け、既存施設を含めた公共スポーツ施設の有効活用とともに、情報の提供など、ハード・ソフトの両面からの「スポーツ環境の諸整備」を掲げ、市民球場など公共スポーツ施設の改修や公共施設予約システムの整備などに取り組んできました。

### (1) 公共スポーツ施設の利用状況

関市の主要公共スポーツ施設である総合体育館、中池スポーツ施設、板取体育館、武芸川体育館、上之保体育館(旧上之保中学校体育館)、武儀生涯学習センター(アリーナ等)の利用者の総数は、直近10年間では、平成26年度の427,873人をピークに、その後、概ね横ばいで推移しています。

図表2-27 関市の公共スポーツ施設年間利用者数の推移



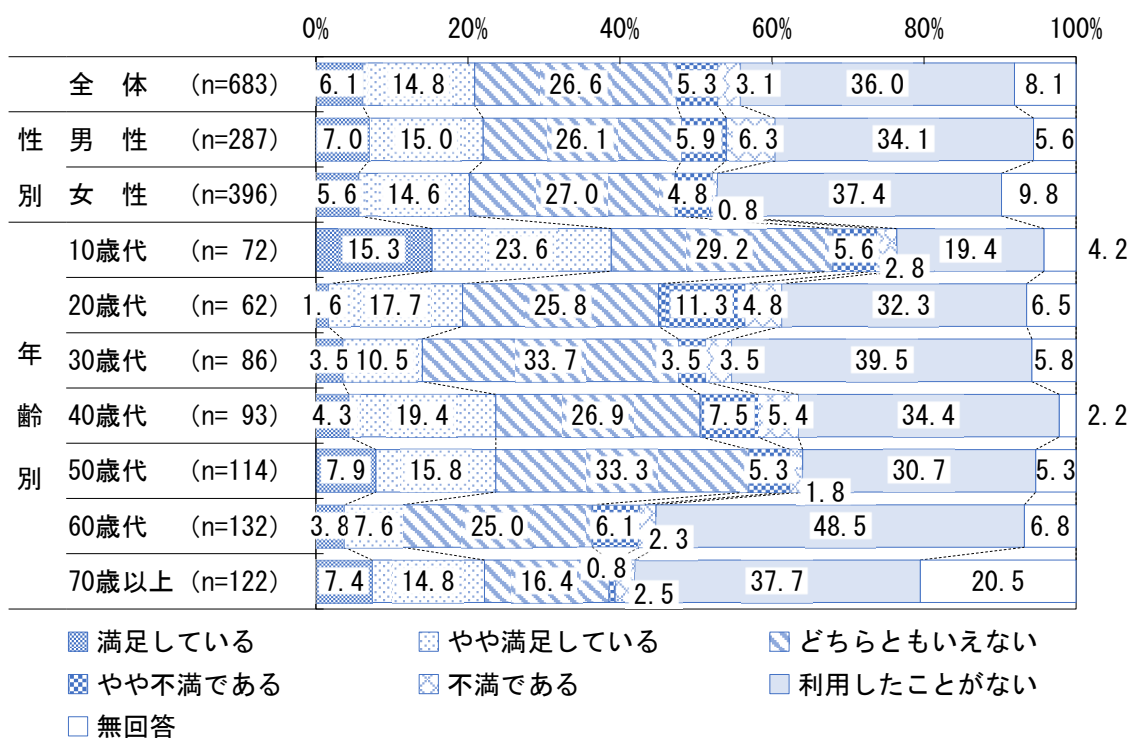
資料：関市スポーツ推進課

## (2) 公共スポーツ施設に対する満足度

令和2年アンケート調査において、16歳以上の市民に公共スポーツ施設の満足度をたずねたところ、「満足している」(6.1%)と「やや満足している」(14.8%)を合わせた《満足》は20.9%と、「やや不満である」(5.3%)と「不満である」(3.1%)を合わせた《不満》8.4%を10ポイント以上上回る一方で、「利用したことがない」が36.0%と最も高くなっています。

これを性別にみても、大きな差異はありませんが、年齢別にみると、《満足》が10歳代(38.9%)で顕著に高くなっており、「利用したことがない」が10歳代(19.4%)で顕著に低く、直近の1年間にスポーツを実施していない割合が比較的高い60歳代(48.5%)で顕著に高くなっています。

図表2-28 関市の公共スポーツ施設に対する満足度(令和2年)

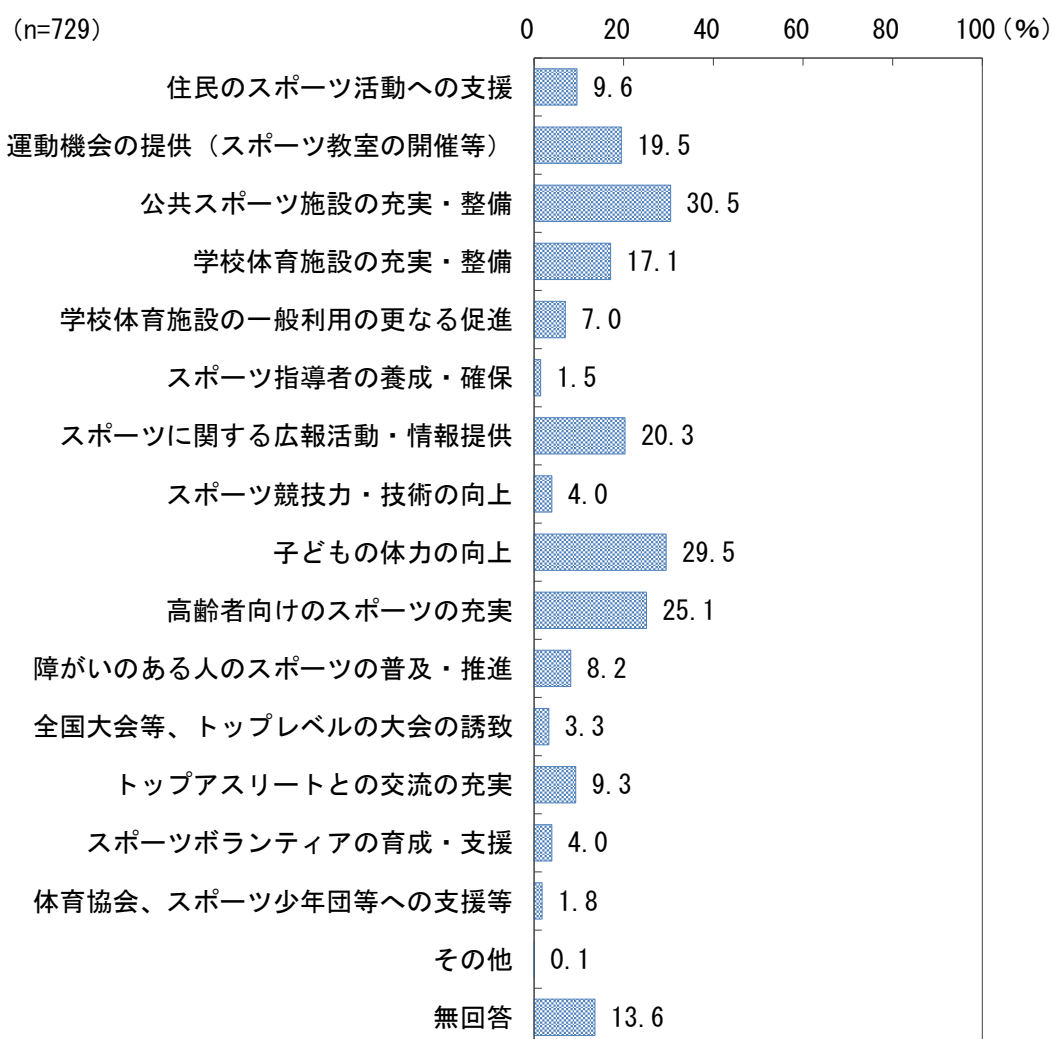


### (3) スポーツの推進のために特に重要な行政の取り組み

さらに、スポーツの推進のために特に重要な行政の取り組みについてたずねたところ、「公共スポーツ施設の充実・整備」が30.5%と最も高く、次いで、「子どもの体力の向上」が29.5%、「高齢者向けのスポーツの充実」が25.1%などとなっています。

「公共スポーツ施設の充実・整備」は、平成26年の調査においても31.1% (n=820)と最も高く、平成20年の調査においては29.0% (n=1,598)と、「子ども、高齢者等、年齢層にあったスポーツの開発・普及」(33.7%)に次いで高くなっていました。スポーツ実施率は向上しているものの、スポーツを「する」場の充実のほか、子どもから高齢者まであらゆるライフステージに対応したスポーツの推進が特に求められていることがうかがえます。

図表2-29 関市のスポーツの推進のために必要な取り組み（令和2年、複数回答）



なお、第Ⅰ期計画期間における「スポーツ環境の諸整備」に向けた事業等の実績は、次のとおりです。

事業等		平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度
総合体育館の一般開放	開放回数	23	23	18	23	21
	利用者数	1,353	1,219	977	1,236	1,204
スポーツ少年団の育成	加入率	26.0	24.9	21.5	23.3	23.3

これまでの10年間で、成人のスポーツ実施率が20ポイント以上上昇した一方、行政に求められている課題「公共スポーツ施設の充実・整備」は変わっていません。しかし、公共スポーツ施設の利用実態をみると、「利用したことがない」人が3分の1を上回っています。ウォーキングや体操、ランニング、キャッチボールなど、身近で自主的に取り組めるスポーツ活動が中心に行われていることを考慮すると、身近な地域における公共スポーツ施設の充実もさることながら、身近な地域にある公園や歩道などの活用（利用のしやすさ）なども求められていると推察されます。さらに、こうした公共施設や公共スペースの活用促進とともに、民間スポーツ施設等とも連携しながら、スポーツを「する」場の充実を図るほか、スポーツを「みる」「ささえる」人などスポーツに関わる人口の拡大を図ることにより、スポーツの推進に加え、スポーツを通じたコミュニティづくりなどの地域の活性化に取り組んでいく必要があります。

## 第3章 基本的な方向性

### Ⅰ 基本理念

スポーツは、「からだを動かす」という人間の本能的な欲求に応えるとともに、爽快感や高揚感、達成感などの心理的・精神的充足感をもたらします。そして、体力の向上やストレスの解消、生活習慣病の予防など心身両面にわたる健康の保持増進に寄与します。また、市内外の人たちとの交流やコミュニケーションを活発にし、人と人との結びつきを深めるとともに、地域の一体感を高めます。

少子高齢社会の進展や生活の利便性の向上により、からだを動かす機会の減少が予想される中、市民が生涯にわたりスポーツに親しみ、豊かなスポーツライフを送ることは大きな意義があります。

これまで、スポーツとの関わりが希薄であった勤労者や高齢者、障がいがある人などを含め、多くの市民が、あらゆるライフステージにおいて、積極的・主体的にスポーツに関わることが重要です。

そのため、第1期計画においては、「いつでも、どこでも身近で気軽にスポーツを楽しめるまち せきし」、「市民ひとり1スポーツ」で“みんなでハッピーライフ”を基本理念に掲げ、スポーツ施策の推進を図ってきました。

第2章における評価や課題等を踏まえ、引き続き、スポーツ施策の一層の充実を図る必要があることから、この計画では、第1期計画の基本理念を継承することとします。

いつでも、どこでも身近で気軽にスポーツを楽しめるまち せきし  
～市民ひとり1スポーツで“みんなでハッピーライフ”～

#### 「スポーツ」の定義について

「スポーツ」は、スポーツ基本法において「心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動」とされています。

この計画でも、同様にとらえ、競技スポーツのほか、交流が図られるレクリエーション活動、散歩、ラジオ体操などの軽い運動を含めた様々な身体活動も「スポーツ」として取り扱います。

## 2 基本目標

この計画では、第1期計画におけるスポーツを「する」「みる」「ささえる」、スポーツの環境を「ととのえる」の視点に、国（文部科学省）が定める「第3期スポーツ基本計画」に示されるスポーツを「つくる」「はぐくむ」視点を加え、以下のとおり5つの基本目標を掲げることとします。

### I 「する」スポーツの推進

生涯を通じてスポーツを生活の中に根づかせ、誰もが、いつでも、どこでもスポーツを楽しむことができ、健康で活力に満ちた生活を送ることができるよう生涯スポーツを推進するとともに、競技力の向上を図り、全国大会等において活躍できる選手・チームを輩出できるよう競技スポーツを推進します。

### II 「みる」スポーツの推進

誰もが、スポーツに親しむ機会をより得られるようスポーツ観戦を推進するとともに、トップアスリート等との交流を通じてスポーツをより身近に感じることができるようスポーツ交流を推進します。

### III 「ささえる」スポーツの推進

スポーツを「する」「みる」人々をささえる団体や指導者の育成に取り組むとともに、より多くの人々がスポーツに関わり活躍できるようボランティアの育成に取り組めます。

### IV スポーツを「つくる」「はぐくむ」

スポーツを「する」「みる」「ささえる」人々が集まり、つながることにより、関市におけるスポーツブランドが作り出され、さらに、交流を通じてはぐくまれるようスポーツによる地域創生に取り組めます。

### V スポーツ環境を「ととのえる」

スポーツを「する」「みる」「ささえる」人々が円滑にスポーツにアクセスでき、そこで新たなスポーツブランドが作り出され、さらに、交流を通じてはぐくまれるようスポーツ施設の整備とスポーツ情報の充実に取り組めます。



### 3 施策体系

前掲の基本理念と5つの基本目標のもと、以下の10の基本施策と各種取り組みを展開します。

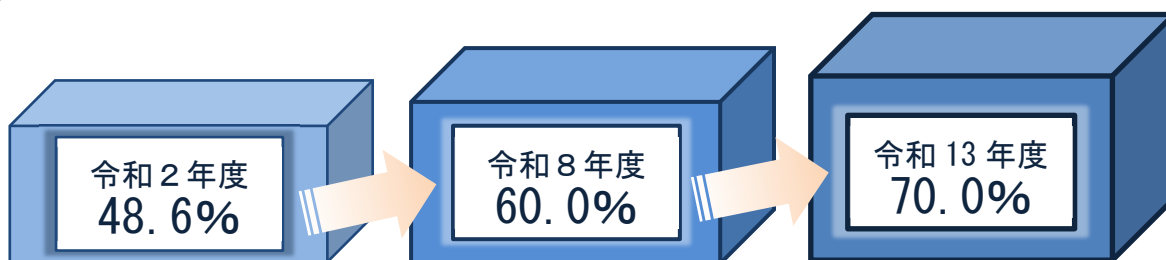
基本理念	基本目標	基本施策	取り組み
いつでも、どこでも身近で気軽にスポーツを楽しめるまちせきし	I 「する」スポーツの推進	1 生涯スポーツの推進	①誰もが身近に取り組めるスポーツ活動の推進
			②子ども・子育て世代のスポーツ活動の推進
			③若者・働き盛り世代のスポーツ活動の推進
			④高齢者等のスポーツ活動の推進
	II 「みる」スポーツの推進	3 スポーツ観戦の推進	①スポーツ競技大会等の誘致
			②トップアスリートへの応援意識の醸成
	III 「ささえる」スポーツの推進	4 スポーツ交流の推進	①スポーツ交流イベントの開催
			②トップアスリートを身近に感じられる機会の提供
		5 組織の育成・強化	①総合型地域スポーツクラブの育成支援
			②スポーツ関係団体との連携強化
IV スポーツを「つくる」「はぐくむ」	6 指導者の育成	①スポーツ推進委員の活動促進	
		②スポーツ指導者の育成	
V スポーツ環境を「ととのえる」	7 ボランティアの育成	①スポーツボランティアの育成	
		②大学等との連携推進	
	8 スポーツによる地域創生	①地域スポーツブランドの確立	
		②スポーツを通じた地域間交流の推進	
9 スポーツ施設の整備・充実	10 スポーツ情報の提供の充実	③スポーツを通じた国際交流の推進	
		①誰もが利用しやすい公共スポーツ施設等の整備と利用促進	
		②学校体育施設の整備、開放	
		③民間スポーツ施設との連携	
			①広報の充実
			②デジタル技術を活用した情報提供

## 4 成果目標

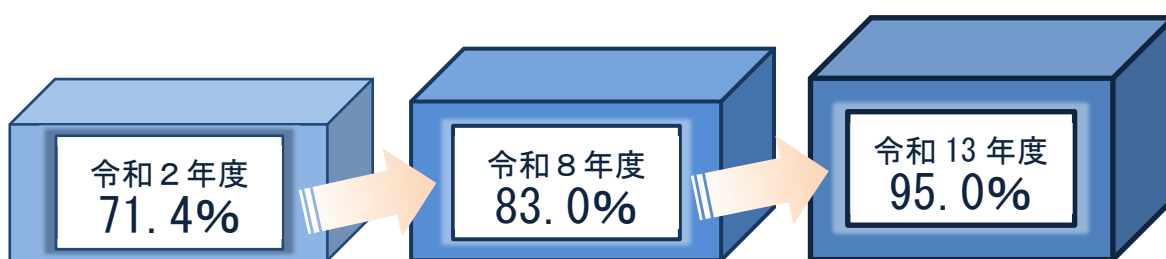
第1期計画の成果（第2章を参照）を踏まえ、誰もが、いつでも、どこでも身近で気軽にスポーツを楽しむ「市民ひとり1スポーツ」の実現に向け、次のとおり10年後の成果（長期）目標を設定します。なお、計画の中間見直しのため、中間年度（令和8年度）の成果（中期）目標も設定することとします。

また、これらの進捗度と施策の実施状況との整合性を検証するため、基本目標・施策に対応した指標を個別に設定することとし、計画の中間年度に、必要に応じて、これら指標における目標や施策等の見直しを行うことにより、スポーツ施策の効率的・効果的な推進を図ります。

### 1 大人の週1回以上のスポーツ実施率



### 2 小中学生の週1回以上のスポーツ実施率



※小学生は5年生の児童、中学生は2年生の生徒を対象とし、学校の体育の授業は除きます。

## 第4章 基本施策の展開

### 基本目標Ⅰ 「する」スポーツの推進

市民の誰もが、いつでも、どこでもそれぞれの能力や状況に応じて、手軽にスポーツを楽しみ、継続的にスポーツを「する」ことができるよう、スポーツ教室やスポーツイベント、スポーツ大会等を定期的で開催し、スポーツ活動の機会を提供することにより、スポーツを「する」人口の拡大を図ります。

とりわけ、子どもが外遊びや運動に親しみ、その楽しさや喜びを実感することは、生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎づくりとなります。子どもたちが運動やスポーツに親しむことができる機会の充実を図るとともに、子育て中の親が子どもとともに楽しみながら参加できるスポーツ活動の機会を提供します。さらに、若者や高齢者、障がいのある人も気軽に参加できるスポーツ活動を推進します。

また、競技力の向上にあたっては、各競技団体や関市スポーツ協会と連携し、小学生から成人までの一貫した選手の育成・強化を計画的に展開します。

#### ➤ 指 標

項目	基準 (基準年度)	中期目標 (令和8年度)	長期目標 (令和13年度)
スポーツを「する」ことが好きな人の割合 (アンケート調査)	《成人》(R2) 男性：76.2% 女性：65.4% 《児童生徒》(R2) 男子：88.9% 女子：77.3%	《成人》 男性：78.0% 女性：68.0% 《児童生徒》 男子：89.0% 女子：79.0%	《成人》 男性：80.0% 女性：70.0% 《児童生徒》 男子：90.0% 女子：80.0%
成人向けスポーツ教室参加者数	1,191人 (H27-R1 累計)	累計：1,250人	累計：2,500人
ウォーキングイベント(はもみん・はつらつウォーキング)参加者数	1,106人 (H27-R1 累計)	累計：1,250人	累計：2,500人
刃物のまち関シティマラソン参加者数	12,314人 (H27-R1 累計)	累計：15,000人	累計：30,000人
ジュニア・親子向けスポーツ教室参加者数	1,101人 (H27-R1 累計)	累計：1,250人	累計：2,500人
障がい者スポーツ教室参加者数	170人 (H27-R1 累計)	累計：200人	累計：500人

項目	基準 (基準年度)	中期目標 (令和8年度)	長期目標 (令和13年度)
国民体育（スポーツ）大会 出場者数	85人 (H27-R1 累計)	累計：100人	累計：200人
全国障害者スポーツ大会 出場者数	19人 (H27-R1 累計)	累計：25人	累計：50人

## 基本施策Ⅰ 生涯スポーツの推進

### ① 誰もが身近に取り組めるスポーツ活動の推進

誰もが手軽にかつ継続的にスポーツに取り組めるよう、各種スポーツ教室のほか、ウォーキングイベントやマラソン大会、チャレンジデーなどの各種スポーツイベント、市民スポーツ大会、自治会・職域対抗スポーツ大会などの各種スポーツ大会を開催します。なお、各種スポーツ教室・イベント・大会等により多くの市民が参加するようニーズ等の把握に努め、内容の充実を図ります。

また、「チャレンジ！！ザ スポーツ・ゲーム」や出前講座等により軽スポーツの普及に努めるとともに、関係部局と連携し、引き続き、「関市ロコトレ体操」など自宅でできる運動を含め、市民の健康・体づくりのための運動を促進します。

### ② 子ども・子育て世代のスポーツ活動の推進

子どもの運動能力の向上を図るため、ジュニアスポーツ教室を開催します。

また、子育て中の親子を対象に、子どもが運動やスポーツを体験する大切さと親子で楽しく実践できる運動やスポーツについて学ぶ教室等を開催するとともに、その周知を強化します。

さらに、総合体育館等において開催するスポーツ教室・イベントにおいて託児サービスを実施するとともに、その周知に努めることにより、子育て中の親、とりわけ女性がスポーツ活動をしやすい環境づくりを推進します。

### ③ 若者・働き盛り世代のスポーツ活動の推進

若者や働き盛り世代が仕事帰りなどにスポーツに取り組めるよう、総合体育館において夜間スポーツ教室を開催するとともに、職域におけるスポーツ活動の推進を図ります。

#### ④ 高齢者等のスポーツ活動の推進

高齢者や障がいのある人なども気軽に参加できるスポーツ教室・大会等を開催し、スポーツ活動の一層の推進を図ります。また、スポーツ推進委員等と連携し、スポーツイベント等への参加を呼びかけるとともに、障がいのある人とない人との交流が図られるよう、障がいのある人への理解啓発や主催者と障がい者団体等との連携強化に努めます。

図表 4-1 主なスポーツ教室

教室名	会場	対象	夜間
シニア筋力アップトレーニング	総合体育館	65歳以上	
ストレッチと体幹トレーニング教室	総合体育館	18歳以上	
バランスボール教室	総合体育館	18歳以上	
バレトン教室	総合体育館	18歳以上	
ヨガ教室	総合体育館	18歳以上	
健康ボールヨガ教室	総合体育館	18歳以上	
硬式テニス教室	中池テニスコート	18歳以上	○
ソフトテニス教室	総合体育館	18歳以上	○
親子わんぱく体操	総合体育館	2・3歳未就学児の親子	
親子スポーツ教室	総合体育館	4歳～小学1年生の親子	
こども運動教室	総合体育館	小学生の親子	
ジュニアスポーツ教室	総合体育館	小学1～4年生	○
小学生ゴルフ教室	ゴルフパートナー	小学生	
障がい者スポーツ教室	総合体育館	障がいのある人	



スポーツ教室（シニア筋力アップトレーニング）

図表 4-2 主なスポーツイベント

イベント名	主な会場	開催時期
はもみん・はつらつウオーキング	市内の特定地域	5・7・11・2月ごろ
刃物のまち関シティマラソン (車いすによる参加も可)	中池陸上競技場発着	3月ごろ
ほらどキウイマラソン大会	洞戸事務所周辺	11月ごろ
かみのほ元旦ジョギング大会	上之保生涯学習センター発着	1月
ほらど健康ウオーキング大会	洞戸ふれあいセンター発	5月ごろ
ふどうの森トレイルラン	迫間不動の森周辺	2月ごろ
せきサイクル・ツーリング in 津保川	上之保温泉発着	5月ごろ
せきサイクル・ツーリング in 板取川	武芸川西グラウンド発着	11月ごろ
板取カップバイクトライアルかぶど ん大会	21世紀の森公園	9月ごろ
板取カップバスケットボール大会	板取体育館	9・11・3月ごろ
3×3 MUGEGAWA (3人制バスケットボール)	武芸川生涯学習センター	11月ごろ
カローリング日本平成村カップ	武儀生涯学習センター	7月ごろ
カローリングジャパンカップ	武儀生涯学習センター	11月ごろ
ラグビーフットボールフェスティバル チャレンジデー	グリーン・フィールド中池	10・11月ごろ
	市内全域	5月ごろ



はもみん・はつらつウオーキング



刃物のまち関シティマラソン

図表 4-3 主なスポーツ大会

大会名	主な会場	開催時期
市民スポーツ大会	総合体育館	4月ごろ
高齢者（シニア）ゲートボール大会	松原ゲートボール場	10月ごろ
市民ゴルフ大会	岐阜関カントリー倶楽部	11月ごろ
市民元旦サッカー大会	グリーン・フィールド中池	11～1月ごろ
市民剣道大会	総合体育館	5月ごろ
市民弓道大会	弓道場	12月ごろ
駅伝競走大会	中池かわせみスタジアム発着	1月ごろ
障がい者ボウリング大会	関ボウリングセンター	12月ごろ
町内対抗野球大会	中池東グラウンド	6～8月ごろ
職域野球大会	中池東グラウンド	8～10月ごろ
自治会対抗バレーボール大会	総合体育館	9月ごろ
市民友好職域バレーボール大会	総合体育館	9～12月ごろ
自治会対抗ソフトボール大会	中池東グラウンド	4～5月ごろ
自治会対抗グラウンド・ゴルフ大会	中池東グラウンド	11月ごろ

※スポーツ教室・イベント・大会は、充実や見直し等により、開催種目・会場・時期等を変更する場合があります。



市民元旦サッカー大会

## 基本施策2 競技スポーツの推進

### ① 競技力向上のための支援

国民体育大会（令和6年の大会から「国民スポーツ大会」）や全国障害者スポーツ大会等の全国大会などにおいて活躍できる選手の育成に向け、各競技団体の強化策に対する支援を行います。

### ② トップアスリートによる指導等の機会の提供

トップアスリートからの助言や指導を受けることにより、技術力の向上や競技人口の拡大につなげるため、トップアスリートによる子ども向けのスポーツ教室などを開催します。

## 基本目標Ⅱ 「みる」スポーツの推進

スポーツを「みる」ことにより、スポーツに親しみ、スポーツ活動のきっかけとなることから、スポーツ講演会や競技大会、強化合宿等の開催により、スポーツ観戦を推進します。

とりわけ、トップアスリート等の技術を身近に観戦することやその体験等を直接享受できることは、スポーツへの関心や興味を高める機会にもなるため、トップアスリート等との交流の機会を創出することにより、スポーツを「みる」人口の拡大を図ります。

### ➤ 指 標

項目	基準 (基準年度)	中期目標 (令和8年度)	長期目標 (令和13年度)
スポーツを「みる」ことが好きな人の割合 (アンケート調査)	《成人》(R2) 男性：82.8% 女性：66.0% 《児童生徒》(R2) 男子：77.6% 女子：55.5%	《成人》 男性：84.0% 女性：68.0% 《児童生徒》 男子：79.0% 女子：58.0%	《成人》 男性：85.0% 女性：70.0% 《児童生徒》 男子：80.0% 女子：60.0%
スポーツ競技大会等誘致件数	1件 (H27-R1 累計)	累計：1件	累計：2件
スポーツ競技強化合宿等誘致件数	1件 (H27-R1 累計)	累計：1件	累計：2件
スポーツ講演会参加者数	650人 (H27-R1 累計)	累計：1,000人	累計：2,000人

### 基本施策3 スポーツ観戦の推進

#### ① スポーツ競技大会等の誘致

スポーツ競技大会等の開催を積極的に誘致し、市民、とりわけ女性や若者のスポーツへの関心や興味を高める機会を創出します。

#### ② トップアスリートへの応援意識の醸成

ラグビーワールドカップ 2019 日本大会開催の際の南アフリカ共和国代表チームの合宿誘致等により選手への応援意識が高まったように、競技大会や強化合宿などの様々な機会を通じてトップアスリートへの応援意識の醸成を図ります。





ラグビー南アフリカ共和国代表チーム 関市キャンプ  
(グリーン・フィールド中池)



ラグビーワールドカップ2019 日本大会  
「日本 vs 南アフリカ」パブリックビューイング  
(総合体育館)

#### 基本施策4 スポーツ交流の推進

##### ① スポーツ交流イベントの開催

規模の大きなスポーツイベントの開催を積極的に誘致し、市民のスポーツへの関心やスポーツを「する」人とそれを「みる」人などとの交流の機会を提供します。

##### ② トップアスリートを身近に感じられる機会の提供

トップアスリートによるスポーツ講演会を開催し、交流を通じて、市民、とりわけ子どもたちの競技への関心を効果的に高めます。

図表 4-4 スポーツ講演会（平成 29 年度開始）の開催実績

開催年度	演題	講師
平成 29 年度	運動のいろいろな効果	松岡 敏男
平成 30 年度	ごきげんでスポーツを楽しむ	辻 秀一
令和元年度	こころのバトンパス	朝原 宣治
令和 2 年度	不撓不屈 ～野球が教えてくれた 3 つのこと～ ※新型コロナウイルス感染拡大のため中止	和田 一浩

### 基本目標Ⅲ 「ささえる」スポーツの推進

総合型地域スポーツクラブは、多種目、多世代の人材や拠点施設を有し、会員により自主運営されているクラブです。子どもから高齢者まで様々なスポーツを愛好する人々の豊かなスポーツライフを「ささえる」総合型地域スポーツクラブの設立、育成を支援します。

一方、関市スポーツ協会ははじめ、各競技団体は、選手の育成・強化のほか、練習・大会等の会場確保など、スポーツの推進に多大な貢献をされています。これらスポーツ関係団体が充実した活動を展開できるよう支援や連携に努めます。

スポーツ指導者は、スポーツのノウハウだけでなく、スポーツの楽しさを伝えるなど、スポーツを広く普及させていく上で重要な役割を担っています。

また、スポーツ推進委員は、これまで地域におけるスポーツの推進の一翼を担ってきました。今後も、その果たすべき役割はますます重要となります。

スポーツ指導者やスポーツ推進委員が様々なスポーツ行事や活動の場等を「ささえる」ことができるよう、関市スポーツ協会ははじめ、各競技団体、スポーツ推進委員会等と連携し、人材の育成や活動を支援します。

さらに、スポーツへの関心の高まりを生かし、大学等と連携し、スポーツボランティアの育成やスポーツボランティア活動の活性化を図ることにより、スポーツを「ささえる」人口の拡大を図ります。

#### ➤ 指 標

項目	基準 (基準年度)	中期目標 (令和8年度)	長期目標 (令和13年度)
総合型地域スポーツクラブの認知度(アンケート調査)	《成人》(R2) 12.4% 《児童生徒》(R2) 6.8%	《成人》 20.0% 《児童生徒》 10.0%	《成人》 30.0% 《児童生徒》 20.0%
スポーツ推進委員年間延べ活動人数	1,526人(R1)	1,750人	2,000人
スポーツ少年団指導者数	406人(R2)	450人	500人
スポーツボランティアを したいと思う人の割合 (アンケート調査)	《成人》(R2) 男性:20.4% 女性:15.5% 《生徒》(R2) 男子:37.1% 女子:41.5%	《成人》 男性:25.0% 女性:20.0% 《生徒》 男子:43.0% 女子:45.0%	《成人》 男性:30.0% 女性:25.0% 《生徒》 男子:50.0% 女子:50.0%

## 基本施策5 組織の育成・強化

### ① 総合型地域スポーツクラブの育成支援

子どもから高齢者まで様々なスポーツを愛好する人々を「ささえる」総合型地域スポーツクラブの設立を支援します。設立後は、それぞれのクラブが抱える課題等を訪問等により早期に把握し、その解消に取り組み、クラブの活性化を図ります。また、クラブがより自立的に活動し、市民が身近な地域のクラブに参加し、スポーツに親しむことができるよう、クラブに対する研修や事業などへの支援を実施します。さらに、クラブを組織的に運営（コーディネート）する人材を養成するため、岐阜県主催の講習会等への参加を促進します。

図表4-5 市内の総合型地域スポーツクラブ（岐阜県認定クラブ） 令和3年9月時点

クラブ名	設立年度	会員数	主な活動場所
NPO法人キウイスportsクラブ	平成10	80	洞戸小学校体育館 板取川中学校体育館等
せきSportsクラブ	平成14	111	総合体育館 中池体育館等
上之保ほほえみSportsクラブ	平成19	1,201	上之保川合体育館 上之保生涯学習センター等
一般社団法人せき西部ふれあいSportsクラブ	平成23	274	小金田中学校体育館 千疋体育館等
中部学院大学Sportsカレッジ	令和元	100	中濃地域のスポーツ施設
倉知Sportsクラブ	令和元	86	片倉グラウンド・中池公園 倉知ふれあいセンター等



上之保ほほえみSportsクラブの活動  
(カローリング大会)

## ② スポーツ関係団体との連携強化

関市スポーツ協会やスポーツ少年団などスポーツ関係団体の自主的な活動を支援します。また、スポーツ関係団体と連携し、地域におけるスポーツ活動の場を確保するとともに、各種スポーツ教室・イベント・大会の充実を図ります。

### 基本施策6 指導者の育成

#### ① スポーツ推進委員の活動促進

地域住民のスポーツ活動において、実技指導や助言、地域組織の育成などの役割を担うスポーツ推進委員に対し、正しい知識を有し、正しく指導ができるよう研修会等への参加や活動の促進のための必要な支援を行います。



関市スポーツ推進委員研修会  
〈障がい者スポーツ（ボッチャ）〉

#### ② スポーツ指導者の育成

市内の優れたスポーツ指導者等の情報を収集し、周知に取り組むなど、スポーツ指導者が、スポーツ教室やスポーツ少年団等において指導、活躍できる環境づくりに努めるとともに、関市スポーツ協会などスポーツ関係団体と連携し、指導者による暴力やハラスメント等の防止に取り組めます。



## **基本施策7** ボランティアの育成

### ① スポーツボランティアの育成

スポーツボランティア登録制度を活用し、スポーツボランティアの役割や意義などを伝える講習会の開催等に取り組み、スポーツボランティアの育成を図ります。

また、スポーツボランティアに関する情報を発信するなど普及啓発に努めるとともに、刃物のまち関シティマラソンをはじめ、各種スポーツイベント・大会等においてスポーツボランティアの活動機会を提供します。

### ② 大学等との連携推進

市内の大学や高等学校、中学校と連携し、刃物のまち関シティマラソンをはじめ、各種スポーツイベント・大会等においてボランティアを体験する機会を提供し、将来のスポーツボランティアの担い手の育成を図ります。

## 基本目標Ⅳ スポーツを「つくる」「はぐくむ」

少子高齢化や共働き世代の増加等により地域コミュニティが衰退する中、スポーツは、体力・健康づくりに寄与するだけでなく、スポーツを通じて地域間や仲間とのつながりをはぐくむなど、地域のコミュニティづくりに大きな役割を果たすことが期待されています。

また、地域特有のスポーツの聖地を「つくり」、その特性を生かしたスポーツイベントの開催や競技大会等の招致により、スポーツを「する」「みる」「ささえる」多くの人々が集まり、つながる機会を創出し、スポーツを通じた交流を「はぐくむ」ことで、地域創生につなげます。

### ➤ 指 標

項目	基準 (基準年度)	中期目標 (令和8年度)	長期目標 (令和13年度)
地域の特性を生かしたスポーツブランド件数	2件 (R2)	4件	6件
ラグビーフットボールフェスティバル参加者数	7,600人 (H27-R1 累計)	累計：8,500人	累計：18,000人
カローリングジャパンカップ・カローリング日本平成村カップ参加者数	1,227人 (H27-R1 累計)	累計：1,250人	累計：2,500人
スポーツに地域の交流促進の効果を期待する成人の割合 (アンケート調査)	男性：44.0% 女性：40.7% (R2)	男性：47.0% 女性：45.0%	男性：50.0% 女性：50.0%

### 基本施策8 スポーツによる地域創生

#### ① 地域スポーツブランドの確立

地域に根付いているスポーツ活動の情報を収集し、スポーツの聖地づくりに向けた取り組みを推進します。とりわけ、関市を代表するスポーツであるラグビーの聖地づくりでは、関市スポーツ協会等と連携し、ラグビーフットボールフェスティバルを継続して開催します。また、武儀地域を中心に展開されているカローリングの聖地づくりに引き続き取り組みます。

さらに、スケートボードやボッチャなど新たなスポーツへのチャレンジや木材を生かしたスポーツ環境の整備など、新たな聖地づくりに向けた検討を進め、スポーツのブランド化による地域創生に取り組みます。

図表 4-6 地域のスポーツブランド化につながる主なスポーツイベント

イベント名	開催地域
ラグビーフットボールフェスティバル	関地域
カローリングジャパンカップ・カローリング日本平成村カップ	武儀地域
ふどうの森トレイルラン	関地域
ほらど健康ウォーキング大会	洞戸地域
板取カップバイクトライアルかぶどん大会	板取地域
3×3 MUGEGAWA (3人制バスケットボール)	武芸川地域
かみのほ元旦ジョギング大会	上之保地域
せきサイクル・ツーリング in 津保川	関・武儀・上之保地域
せきサイクル・ツーリング in 板取川	洞戸・板取・武芸川地域




ラグビーフットボールフェスティバル  
(グリーン・フィールド中池)



カローリングジャパンカップ  
(武儀生涯学習センター)





## ② スポーツを通じた地域間交流の推進

スポーツイベントの開催は、市民に対してスポーツを「する」機会を提供するだけでなく、それを「みる」人、スタッフやボランティア等の「ささえる」人など、多くの人が集い、つながり、スポーツを通じた交流をはぐくみます。

市民のみならず、市外、県外から多くの人々が参加できる魅力あるスポーツイベント等の開催に努め、それを地域の活力や交流人口の拡大につなげます。

## ③ スポーツを通じた国際交流の推進

世界トップレベルのプレイを間近で「みる」ことや選手と触れ合うことは、市民、特に子どもたちに大きな夢や感動をもたらし、スポーツ参画人口の拡大につながります。

岐阜県や各競技団体等と連携し、国際競技大会の招致・開催や国外トップアスリート等の合宿誘致に取り組むなど、市民の国際交流の機会を創出します。

## 基本目標Ⅴ スポーツ環境を「ととのえる」

身近なところで気軽にスポーツを楽しみ、健康であり続けたいと望む気持ちは市民の多くが抱いている願いです。年齢や体力に応じたスポーツを自ら進んで継続的に楽しむことができるよう、公共スポーツ施設や広場、公園などのスポーツ環境の整備・充実に努めます。さらに、民間スポーツ施設とも連携し、スポーツ活動の場の充実に努めます。

また、公共スポーツ施設の利用向上を図るため、令和4年度から本格稼働する公共施設予約システム（「せきとる net」）の活用を促進するとともに、同システムや市ホームページ等を通じて、市民の誰もがスポーツにアクセスできるようスポーツに関する情報提供を充実し、スポーツを「する」「みる」「ささえる」「つくる」「はぐくむ」環境を「ととのえ」ます。

### ➤ 指 標

項目	基準 (基準年度)	中期目標 (令和8年度)	長期目標 (令和13年度)
公共スポーツ施設年間延べ利用者数 ※	383,696 人 (R1)	390,000 人	400,000 人
成人の公共スポーツ施設に対する満足度 (アンケート調査)	男性：22.0% 女性：20.2% (R2)	男性：25.0% 女性：25.0%	男性：30.0% 女性：30.0%
公共施設予約システム（「せきとる net」）登録スポーツ団体数	※R4 本格稼働	700 件	1,000 件

※対象施設は、総合体育館、中池スポーツ施設、板取体育館、武芸川体育館、上之保体育館(旧上之保中学校体育館)、武儀生涯学習センター（アリーナ等）です。

### 基本施策 9 スポーツ施設の整備・充実

#### ① 誰もが利用しやすい公共スポーツ施設等の整備と利用促進

総合体育館メインアリーナの一般開放や用具・器具の貸し出し等を実施するとともに、多くの市民の利用促進を図るため、周知を強化します。また、これら公共スポーツ施設のほか、広場、公園などのスペースの安全確保、木材を生かしたウォーキングコースづくりなど、自然や人にやさしいスポーツ環境づくりを検討します。

なお、公共スポーツ施設における段差の解消や手すりの設置など、施設の構造・設備の改修を進め、高齢者や障がいのある人にとっても活動のしやすい環境や、感染症等による制限下でも活動できる環境の整備に努めます。



総合体育館メインアリーナ



市民球場（令和4年4月リニューアルオープン）


## ② 学校体育施設の整備、開放

地域におけるスポーツ活動の中心となる小中学校の体育施設は、児童生徒をはじめ、多くの地域住民が利用できるよう、より効率的な開放に努めます。

## ③ 民間スポーツ施設との連携

民間スポーツ施設は、利用時間の自由さ、施設の多機能性、専門指導員の配置など、利用者の様々なライフスタイルやニーズに応じたサービスを提供しており、市民のスポーツ活動の場の一つとなっています。

多様化する市民のスポーツニーズに対応するため、民間スポーツ施設と連携し、スポーツ教室・イベント・大会におけるスポーツ指導者の活用や情報共有について検討します。



## 基本施策 10 スポーツ情報の提供の充実

### ① 広報の充実

各種スポーツ教室・イベント・大会への参加を促進するため、市ホームページや広報せきに加えて、スポーツ推進委員による「スポ推せき」や各種チラシの発行など、多様な媒体を用いて各種スポーツ教室・イベント・大会の周知を図ります。

また、総合体育館のほか、図書館、支所などに「スポーツ情報コーナー」を設置し、誰でも気軽に閲覧できるよう整備するとともに、市ホームページや広報せきを通じて「スポーツ情報コーナー」の利用を促進します。

### ② デジタル技術を活用した情報提供

令和4年度から本格稼働する公共施設予約システム（「せきとる net」）の周知を図るとともに、市ホームページ等と連動したスポーツに関する情報の提供に努めます。なお、スポーツに関する情報の提供にあたっては、目的別に情報が得られるようホームページを作成し、定期的な更新など、利便性の向上に取り組みます。

## 第5章 計画の推進

### 1 推進体制

スポーツ施策を総合的かつ計画的に推進等するため、スポーツ基本法第31条の規定に基づく「関市スポーツ推進審議会」を設置しています。関市スポーツ推進審議会は、関市スポーツ推進計画の策定をはじめ、スポーツ施策の推進について審議しています。そのため、有識者やスポーツ関係団体、地域団体等の代表者により構成し、幅広い意見の聴取に努めています。

この計画の推進にあたっては、関市スポーツ推進審議会においてスポーツ施策の実施状況等について報告し、審議結果をその後のスポーツ施策に反映するよう努めるとともに、関市スポーツ協会をはじめとしたスポーツ関係団体や自治会などの関係団体、岐阜県などの関係機関、健康福祉部、教育委員会など関係部局との連携や市民との協働に取り組みます。

### 2 進捗管理

「市民ひとり1スポーツ」の実現に向け、この計画では、10年後の成果目標として「週1回以上のスポーツ実施率」を掲げるとともに、その達成をはかる指標を基本目標・施策に沿って掲げています。第2章に示したように、これらのデータはアンケート調査も活用して定期的に把握し、そのデータの分析結果などの証拠に基づき、施策や取り組みの充実、見直し等を図る手法（EBPM※）により、この計画の進捗管理を実施します。

なお、計画の進捗状況については、関市スポーツ推進審議会より意見等を聴取するとともに、市民と情報を共有し、市民とともに成果目標の達成を目指すことにより、関市におけるスポーツ施策の効果的な推進を図ります。

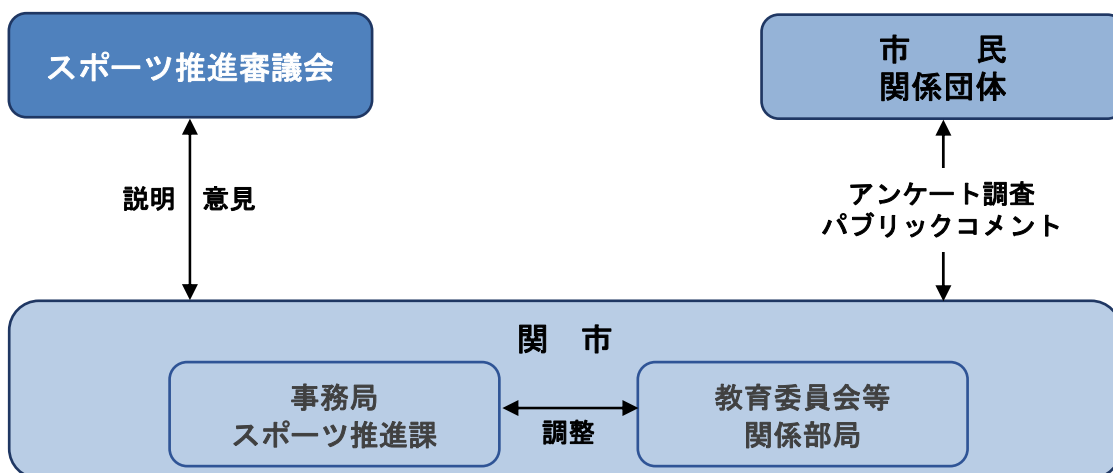
※EBPM(Evidence Based Policy Making):政策の企画をエピソードなどに頼るのではなく、政策目的を明確化した上で客観的データなど合理的根拠(エビデンス)に基づくものとする  
こと。

## 第6章 資料

### I 策定体制

この計画の策定にあたっては、市民のスポーツのニーズ等を把握するため、アンケート調査等を実施するとともに、関市スポーツ推進審議会において審議いただきました。

図表6-1 策定体制



## ○関市スポーツ推進審議会条例

平成 21 年 9 月 25 日

関市条例第 37 号

(設置)

第 1 条 スポーツ基本法（平成 23 年法律第 78 号。以下「法」という。）第 31 条の規定に基づき、関市スポーツ推進審議会（以下「審議会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第 2 条 審議会は、関市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の諮問に応じて次に掲げるスポーツの推進に関する重要事項について調査審議し、及びこれらの事項に関して教育委員会に建議する。

- (1) 法第 10 条第 1 項に規定する地方スポーツ推進計画に関すること。
- (2) 法第 35 条の規定により補助金の交付について意見を述べること。
- (3) スポーツ施設及び設備の整備に関すること。
- (4) スポーツの指導者の養成及びその資質の向上に関すること。
- (5) スポーツの事業の実施及び奨励に関すること。
- (6) スポーツの団体の育成に関すること。
- (7) スポーツによる事故の防止に関すること。
- (8) スポーツの技術水準の向上に関すること。
- (9) 総合型地域スポーツクラブの設立及び育成に関すること。
- (10) 前各号に掲げるもののほか、スポーツの推進に関すること。

(組織)

第 3 条 審議会は、委員 10 人以内で組織し、次に掲げる者のうちから、教育委員会が任命する。

- (1) スポーツに関する学識経験者
- (2) 関係行政機関の職員

2 委員の任期は、2 年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

4 教育委員会は、委員が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、これを解任することができる。

- (1) 職務の遂行に支障があり、又はこれに堪えないとき。
- (2) 職務上の義務に違反し、又はその職務を怠ったとき。
- (3) 委員としてふさわしくない非行があったとき。

(会長及び副会長)

第4条 審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選により定める。

- 2 会長は、審議会を代表し、会務を総理する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 審議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集し、会長が議長となる。

- 2 審議会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 審議会は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させて、説明又は意見を聴くことができる。

(委任)

第6条 この条例に定めるもののほか、審議会に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

- 1 この条例は、公布の日から施行する。
- 2 この条例の施行の日以後、最初に任命された審議会の委員の任期は、第3条第2項の規定にかかわらず、平成23年3月31日までとする。
- 3 関市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例（昭和42年関市条例第3号）の一部を次のように改正する。

附 則(平成23年12月20日条例第30号)

- 1 この条例は、公布の日から施行する。
- 2 この条例の施行の際現に第3条の規定による改正前の関市スポーツ振興審議会条例第3条第1項の規定により任命された関市スポーツ振興審議会（以下「旧審議会」という。）の委員である者は、この条例の施行の日、第3条の規定による改正後の関市スポーツ推進審議会条例第3条第1項の規定により、関市スポーツ推進審議会の委員として任命されたものとみなす。この場合において、その任命されたものとみなされる者の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、同日における旧審議会の委員としての任期の残任期間と同一の期間とする。



○関市スポーツ推進審議会委員名簿

【委員任期】令和2年4月1日～令和4年3月31日

区 分	所属団体・役職	氏 名	備考
会 長	一般財団法人関市体育協会 会長	神谷 秀幸	令和2年度
	一般財団法人関市スポーツ協会 会長	喜久生明男	令和3年度
副会長	関市スポーツ少年団 本部長	川嶋 英司	
委 員	スポーツドクター	喜久生明男	令和2年度
委 員	関市自治会連合会 書記	野口 正人	
委 員	中部学院大学 教授	水野かがみ	
委 員	一般財団法人関市スポーツ協会 専務理事	小野木 卓	旧体育協会
委 員	関市スポーツ推進委員会 会長	大野 照美	
委 員	関市スポーツ推進委員	安田 直美	
委 員	関市小中学校長会 会長	坂野 隆	令和2年度
		山田 暁男	令和3年度
委 員	一般社団法人西部ふれあいスポーツクラブ 会長	白岩 誠治	

※敬称略

## 2 策定経過

年 月 日	内 容
令和2年9月15日	令和2年度第1回関市スポーツ推進審議会 (アンケート調査の実施等について)
令和2年11月26日～ 12月25日	アンケート調査(小中学生)の実施
令和2年12月4日～ 令和3年1月10日	アンケート調査(一般)の実施
令和3年2月10日	令和2年度第2回関市スポーツ推進審議会 (アンケート調査の結果等について)
令和3年8月18日	令和3年度第1回関市スポーツ推進審議会 (第2期関市スポーツ推進計画の策定に向けて)
令和3年11月26日	令和3年度第2回関市スポーツ推進審議会 (第2期関市スポーツ推進計画(素案)について)
令和3年12月28日～ 令和4年1月27日	パブリックコメント → 1件
令和4年2月1日	令和3年度第3回関市スポーツ推進審議会 (第2期関市スポーツ推進計画にかかるパブリック コメントの結果等について) ※新型コロナウイルス感染拡大のため書面(通知)に より対応

## 第2期関市スポーツ推進計画

---

発行年月 令和4年3月  
発行者 関市協働推進部スポーツ推進課  
〒501-3802  
岐阜県関市若草通3丁目1番地  
TEL 0575-23-7766  
FAX 0575-23-7765  
Email [sports@city.seki.lg.jp](mailto:sports@city.seki.lg.jp)

---

